

第28回

四国造形教育研究大会

徳島 大会

～ ときめき つくりだし つなげていく, 私 ～

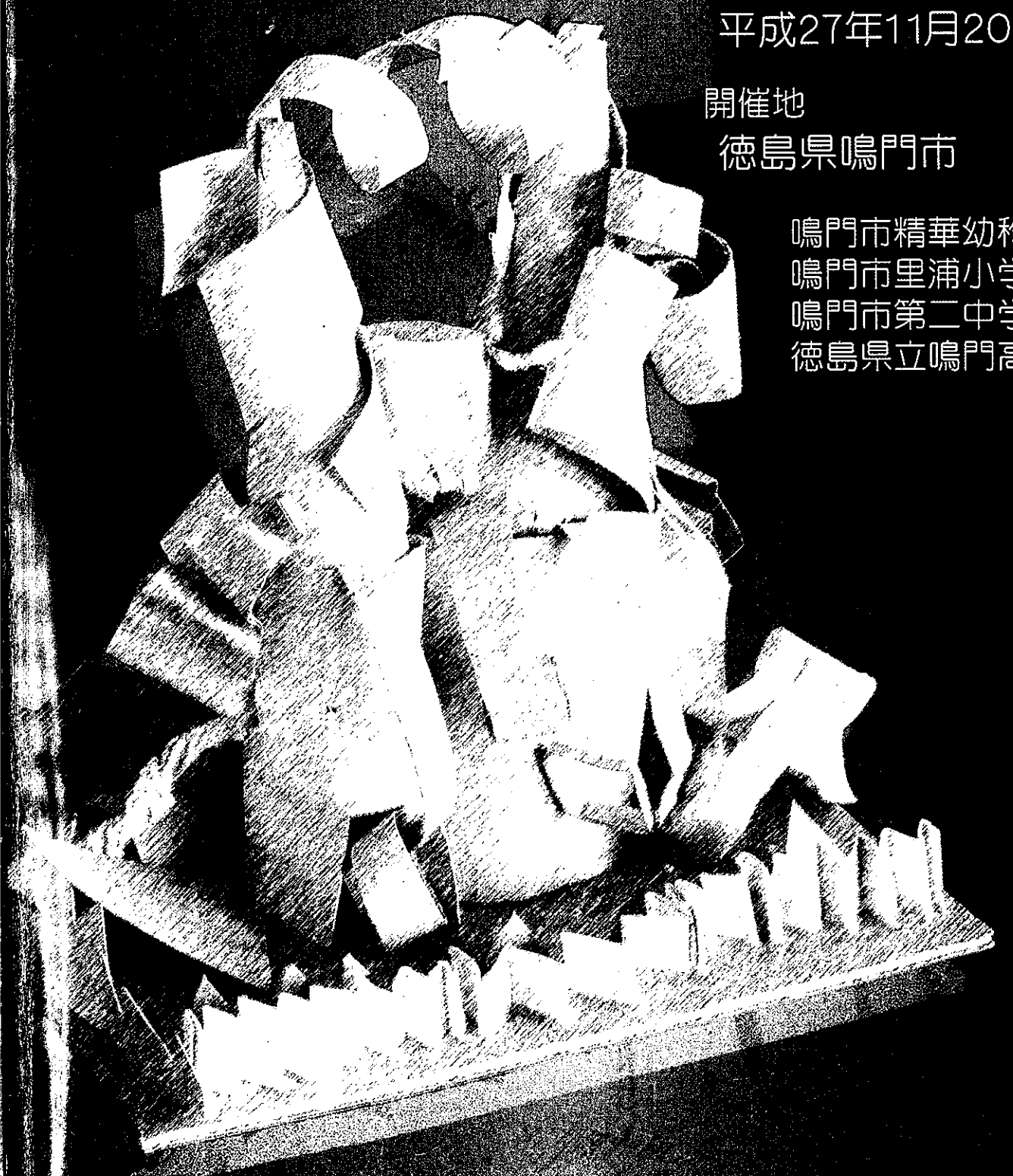
会期

平成27年11月20日(金)

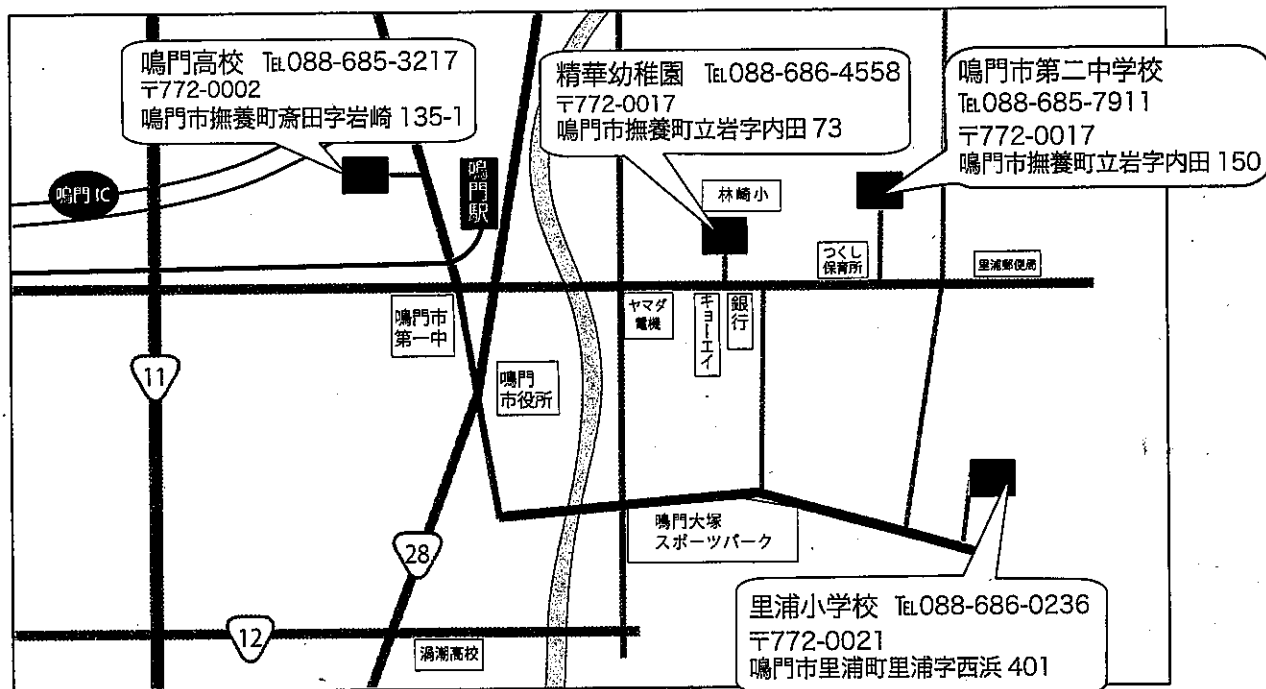
開催地

徳島県鳴門市

鳴門市精華幼稚園
鳴門市里浦小学校
鳴門市第二中学校
徳島県立鳴門高等学校



会場案内



精華幼稚園：徳島バス岡崎海岸・市バス岡崎行運動公園口
 徒歩 5 分，JR 四国鳴門駅 徒歩15分
 E-mail: ylseika@tv-naruto.ne.jp

里浦小学校：鳴門市地域バス栗津行き
 里浦小学校前 徒歩 3 分
 E-mail: satoura01@tv-naruto.ne.jp

鳴門市第二中学校：徳島バス北泊線 林崎 徒歩 7 分
 E-mail: daini-jhs01@tv-naruto.ne.jp

鳴門高等学校：JR 四国撫養駅 徒歩 5 分，
 徳島バス鳴門郵便局前 西へ 1 km 徒歩10分
 E-mail: naruto-hs@mt.tokushima-ec.ed.jp

目 次

◆ 会 場 案 内	1
◆ 大 会 長 あ い さ つ	3
◆ 徳 島 県 教 育 委 員 会 あ い さ つ	4
◆ 鳴 門 市 教 育 委 員 会 あ い さ つ	5
◆ 大 会 要 項	6
◆ 大 会 テ ー マ に つ い て	8
◆ 記 念 講 演 ・ 講 師 紹 介	10
◆ 会 場 紹 介	12
◇ 鳴 門 市 精 華 幼 稚 園	12
◇ 鳴 門 市 里 浦 小 学 校	13
◇ 鳴 門 市 第 二 中 学 校	13
◇ 徳 島 県 立 鳴 門 高 等 学 校	15
◆ 幼稚園部会 テーマ解説・公開保育・提案発表	21
◆ 小学校部会 テーマ解説・公開授業・提案発表	35
◆ 中学校部会 テーマ解説・公開授業・提案発表	41
◆ 高等学校部会 テーマ解説・公開授業	44
◆ 第28回四国造形教育研究大会運営組織	45
◆ 四 国 造 形 教 育 連 盟 規 約	45
◆ 四 国 造 形 教 育 研 究 大 会 主 題 一 覧	46

表紙「くるくるまほうハウス」
 里浦小学校
 4年 米澤 かりん

あいさつ

第28回四国造形教育研究大会大会長

徳島県造形教育協会会長

石井 一 次

この度、第28回四国造形教育研究大会徳島大会が、秋も深まりを見せるここ鳴門市において開催する運びとなりました。四国各地より多くの造形教育の実践者が集い開催できますことは、大きな喜びであります。心から感謝申し上げます。

さて、新学習指導要領が全面実施され、図画工作科・美術科においては、造形的な創造活動の基礎的な能力を高めるとともに、生活の中の造形や美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことが求められています。それと同時に、現在まで実践されてきた造形教育が、子どもたちにどのような造形的な力をつけさせてきたのかを再確認することも、私たちにとって重要な使命であると考えます。

こうした中、第28回四国造形教育研究大会は、「ときめき つくりだし つなげていく、私」を大会テーマとして、幼稚園、小学校、中学校、高等学校のそれぞれの造形活動の現状と課題をとらえ、子どもたちの主体的な造形活動を目指すための手立てについて研究を進めてきました。その研究過程においては、各園、学校間での連携・協力によって、子どもたちの発達段階に応じた指導内容を明らかにしながら、系統性を考慮した指導計画に基づいた実践を積み上げてきました。8年前の第24回四国造形教育研究大会徳島大会での資料「系統性を踏まえた学習内容の一覧表」による実践研究を基に、育てたい資質や能力、学習内容や指導計画等の系統性を、さらに明確に示し整理したものが、今回、研究資料部が作成した「系統性を踏まえた学習内容の一覧」の冊子です。是非、ご覧になり活用いただければ幸いです。

本日、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の保育や授業、分科会が各会場で行われますが、それぞれの研究主題に応じた提案発表がなされ研究協議が深まり、今後の研究や実践に生かされることをご期待申し上げます。私たちは、この大会に参加して改めて造形教育の人間形成に寄与する価値を再発見するだろうと思います。大会で得られた成果を広げ、四国造形教育研究大会に参加する皆様の連携がさらに深まっていくことを願っております。

結びになりましたが、この大会を開催するにあたり、温かいご指導・ご支援をいただきました徳島県教育委員会、鳴門市教育委員会をはじめ関係諸機関並びに関係者の皆様に心よりお礼を申し上げ、大会のごあいさつといたします。

あいさつ

徳島県教育委員会教育長
佐野 義行

徳島県には、どこから眺めても眉の姿に見えることからその名がついたといわれる「眉山」、碧く豊かな水をたたえ日本の三大河川として古くから「四国三郎」と呼ばれる「吉野川」、そしてここ鳴門には世界最大といわれる鳴門海峡の「渦潮」があります。また、「傾城阿波の鳴門」で知られる「阿波人形浄瑠璃」や阿波藩の特産であった藍による「藍染め」などもあります。この豊かな自然を有し、伝統文化を育んできた「阿波の国」徳島へようこそおいでくださいました。四国各県から多くの教職員の皆様をお迎えして、第28回四国造形教育研究大会徳島大会が開催できますことは、誠に喜ばしいことであり、心から歓迎申し上げます。

また、御参加の皆様におかれましては、日頃より、多様化する教育課題に対する教育活動の実践や造形教育の充実・発展に御尽力いただいておりますことに、深く敬意を表する次第であります。

さて、これから子供たちが成長していく社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、大きく変化していく可能性があります。子供たちには、そうした厳しい時代を乗り越えるために、伝統や文化に立脚した高い志を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値を創造し、未来を切り開いていく力が求められます。

徳島県教育委員会では、平成25年3月、「とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましく人づくり～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～」を基本目標として、「徳島県教育振興計画（第2期）“阿波っ子みらい教育プラン”」を策定いたしました。この計画を本県教育の柱として、学校や教育委員会だけでなく、徳島県に関わりのある全ての人がしっかりと受け止め、これからの時代を担う徳島の子供たちの育成に取り組んでいるところです。

このような中、「ときめき つくりだし つなげていく、私」を大会テーマに、幼稚園・小学校・中学校・高等学校において子供の発達課題や実態に応じて、さらに独自のテーマを設定し実践研究を進められ、積み上げられてきた研究成果を発表・協議されますことは、大変意義深いものであり、本県の造形教育にとりましても大きな示唆をいただけるものと御期待申し上げます。

最後になりましたが、各校種の研究の中心としてお取り組みいただきました会場校ならびに提案発表の皆様をはじめ、大会開催に御尽力いただきました関係の方々にお礼を申し上げ、挨拶といたします。

あ い さ つ

鳴門市教育委員会教育長

安 田 修

第28回四国造形教育研究大会が、3年後に100周年を迎えるベートーベン「第九交響曲」日本初演の地、ここ鳴門市において盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。また、四国各県及び県内各地からご参加くださいました多くのみなさまを、心より歓迎申し上げます。

本市は、徳島県の東北端に位置し、特に北部は瀬戸内海国立公園に指定された景勝地です。「鳴門公園」や「渦の道」など、渦潮や鳴門海峡の風景を一望する施設も整備されていますので、ぜひ訪れてみてください。「なると金時」「鳴門鯛」「鳴門わかめ」など全国的にも名を知られたブランド力の高い「鳴門ならでは」のお土産も目にされるはずです。

このような魅力あふれる地域資源に加え、歴史・文化的な資源にも恵まれた本市は、「夢と希望あふれる教育文化の創造と発信」を基本理念とし、「郷土を愛し思いやりに満ちた次代を担う人づくり」を基本目標に掲げ、市民誰もが生きがいあふれる人生を送ることができる「生涯学習社会」の実現を目指しております。具体的には、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進し、人間性豊かな人づくりを行おうとしています。豊かな情操を養うことを目標とする美術教育は、本市の教育推進においても重要な役割を担っております。

本研究大会は「ときめき つくりだし つなげていく、私」をテーマとし、精華幼稚園、里浦小学校、鳴門市第二中学校、鳴門高校を会場に、公開授業（保育）、研究協議が行われ、岡田京子文部科学省教科調査官による記念講演がございます。

そこでは、豊かな感性や表現力、自らつくりだす力がどのように育っていくのかを、学習の主体である子どもたちに視点を当て探ろうとしています。「私」を取り巻くしがらみからどうやって「私」を解放させ、「私」の持つ思いをいかに色や形、素材に込めさせるのか。造形表現の楽しさをどのように味わわせることで、主体的に取り組む力がどう育つのか。これらのことが各会場におきまして解明され、本研究会が成功裏に終わることを期待しております。

そして、その成果を四国の各学校・園にお持ち帰りいただき、それぞれの学校・園で生かされますようお願いしております。

終わりにあたりまして、この研究大会を企画・運営されました役員の方々、また、ご指導いただきます講師先生・指導助言の先生方に対しまして、深く感謝いたしますとともに、ご参会の先生方の今後ますますの活躍をお祈りして、ご挨拶いたします。

第28回四国造形教育研究大会 徳島大会

- 1, 大会テーマ 「ときめき つくりだし つなげていく, 私」
- 2, 会 期 平成27年11月20日(金)
- 3, 開 催 地 徳島県鳴門市
- 4, 主 催 四国造形教育連盟, 四国中学校美術教育連盟, 徳島県造形教育協会,
徳島県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会, 徳島県小学校教育研究会,
徳島県中学校教育研究会, 徳島県高等学校教育研究会
- 5, 後 援 徳島県教育委員会, 香川県教育委員会, 高知県教育委員会, 愛媛県教育委員会,
鳴門市教育委員会, 徳島県国公立幼稚園・こども園長会, 徳島県私立幼稚園協会,
徳島市教育委員会, 徳島県小学校長会, 徳島県中学校長会, 徳島県高等学校長協会,
NHK 徳島放送局, 四国放送, 徳島新聞社,
公益財団法人日本教育公務員弘済会徳島支部

6, 日程・会場

◇ 幼稚園部会 鳴門市精華幼稚園

9:00~ 9:30	9:30~10:20	10:40~ 12:10		全体会 鳴門市第二中学校									
受付	公開保育	分科会 研究協議		13:30~14:10	14:15~ 15:45	15:50~ 16:00							
◇ 小学校部会 鳴門市里浦小学校				昼食 (各会場)									
9:00~ 9:20	9:20~9:35	9:45~ 10:30	10:50~ 12:10										
受付	研究説明	公開授業	分科会 研究協議	移動 作品鑑賞		開会行事		取組発表		記念講演		閉会行事	
◇ 中学校部会 鳴門市第二中学校													
9:00~ 9:30	9:30~10:20	10:40~ 12:10		移動 作品鑑賞		開会行事		取組発表		記念講演		閉会行事	
受付	公開授業	分科会 研究協議											
◇ 高等学校部会 徳島県立鳴門高等学校				移動 作品鑑賞		開会行事		取組発表		記念講演		閉会行事	
9:30~ 10:00	10:00~10:50	11:00~ 12:10											
受付	公開授業	分科会 研究協議		移動 作品鑑賞		開会行事		取組発表		記念講演		閉会行事	

7, 記念講演 演 題 「表現や鑑賞の活動で育む, 子供の資質・能力」

講 師 岡田 京子 先生 (文部科学省 教科調査官)

8, 大会事務局

徳島市川内北小学校 森 裕二郎

〒771-0131 徳島市川内町大松133

川内北小 TEL 088-665-0007 FAX 088-665-4675

E-mail: shikokuzoukei@gmail.com

9. 公開保育・公開授業

◇ 幼稚園部会

年限	保育者(精華幼)
4歳児	泊 美由紀・木戸 茜 西谷 洋子・中原 浩子
5歳児	東條有希子・天羽 千絵 板東亜紀子・松田紗也加

◇ 中学校部会

領域	授業者	題材名
表現	亀井 俊治 (鳴門二中)	レッツ フレスコ 思いをこめて
表現	釜床 愛子 (城東中)	見つけた!ステキなあなた ~切り絵の世界~

◇ 高等学校部会

領域	授業者	題材名
表現	清水 愛恵 (鳴門高)	お気に入りのつくろう 一大谷焼をいかしてー

◇ 小学校部会

学年	授業者(里浦小)	題材名
1年	林 亜由美 堀川 結華	わくわく だんだんランド ~だんボールのへんしん~
2年	横瀬恵理子 黒田 登美	ピコリン星 ゆめのステージ
3年	櫻井 真理 川野 晃代	とびだせ!ふしぎな世界へ! ~まほうのとびらをあけると~
4年	貞野 彩 楠本 麻子	自然からのおくりもの ~里浦の自然物をつかって~
5年	中野 克哉 乾 修治	里浦の農家さんを応援する 守り神をあらわそう
6年	古林 賢一	海からのおくり物をもとに

10. 分科会

◇ 幼稚園部会

年限	提案者	助言者	司会者	分科会記録者
4,5歳児	安原 陽香 (岩倉幼)	森田 範子 (徳島県教育委員会)	久米井明美 (堀江北幼)	出間 義胤(第一幼) 宮本あゆみ(成稔幼)

◇ 小学校部会

学年	提案者	助言者	司会者	分科会記録者
1年	三宅紀美代 (江原南小)	若井ゆかり(鳴門西小) 野島 由紀(元みかづき幼)	笠井 啓二 (江原南小)	三橋 洋子(太田小) 西岡 佳江(半田小)
2年	金澤 育美 (助任小)	加藤 由恵(大松小) 鳥谷真由美(松山市立番町小)	折坂 浩介 (内町小)	鎌田 素子(川内南小) 左海 紗佳(附属小)
3年	石川 綾美 (北小松島小)	美馬 智子(助任小) 滝川 稔(高松市立川島小)	上田 貢 (千代小)	米山美代子(千代小) 古田 有美(千代小)
4年	杜 登希 (桜谷小)	居上 真人(四国大学) 岡村 真一(松山市立宮前小)	川野 雅弘 (桜谷小)	具志 加奈(鷺敷小) 田中 鮎美(木頭小)
5年	近藤 博美 (加茂小)	日岡 健二(林小) 達川 浩一(いの町立吾北小)	安友 国仁 (王地小)	川人 成子(三縄小) 篠原 晃代(池田小)
6年	新矢 環 (伊座利小)	山田 芳明(鳴門教育大学) 真鍋 英和(三豊市立比地小)	浅田 裕之 (木岐小)	浅田 清子(牟岐小) 米口 尋世(海部小)

◇ 中学校部会

領域	提案者	助言者	司会者	分科会記録者
表現	長尾 陸美 (北島中)	結城 栄子(徳島県教育委員会) 遠藤 貢治(伊予市立中山中)	新居 由香 (上板中)	戎 宏実(南部中) 笠井美佐子(国府中)
表現	田村 浩志 (鳴門一中)	中西 邦宏(南部中) 岡本 絵里(高知県教育センター)	内藤美也子 (勝浦中)	小倉裕美子(不動中) 犬伏 茂美(入田中)

◇ 高等学校部会

領域	授業者	助言者	司会者	分科会記録者
表現	清水 愛恵 (鳴門高)	乾 寛(名西高) 西木 正(名西高)	花谷 弘子 (徳島北)	武田亜希子(徳島市立)

ときめき つくりだし つなげていく，私

1 造形活動の現状と課題

夢中で取り組んでいる真剣なまなざし，自分の表現に納得いかずに悩んでいる姿，試行錯誤の末にひらめいた瞬間，できあがった作品を友達に誇らしげに見せながら説明している笑顔など，造形活動に取り組む子供は生き生きとした姿を私たちにを見せてくれる。造形活動は，子供一人一人の感性を輝かせ，自己表現の喜びを実感させ，子供にすることが楽しくてたまらないと感じさせられる活動である。ところが，現在の子供を取り巻く環境の中には，インターネットでの瞬時の情報入手，バーチャル体験，相手の顔を見ずしてのネット上でのコミュニケーションなど，人間関係や実体験が希薄な状況もみられる。それは，都市部のみならず，地方においても同様で，豊かな環境があるにもかかわらず，自然体験や日常の遊びの中から，学ぶこと，紆余曲折してつくりあげる体験が減っている。五感を働かせ，行きつ戻りつしながら，自分の目的に対して，意図をもって表現する経験が重視されるべきではないだろうか。

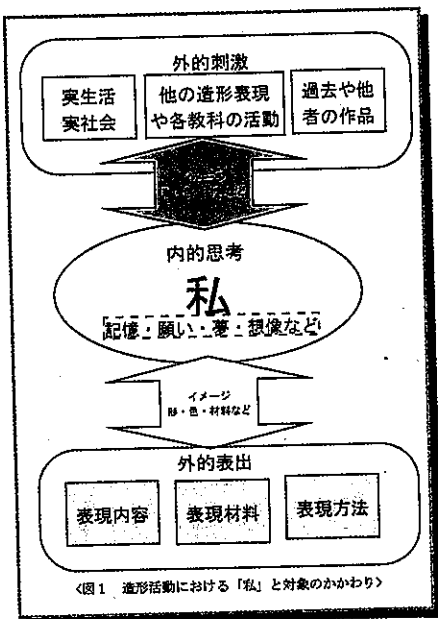
そこで，子供が生活を通じて社会とつながり合う中で，自分の感じたことや考えたこと，心情・想像などを形や色・材料などを用いて，試行錯誤しながら，誰のものでもない自分だけのものをつくりだすことを実感させたい。それは，作品が暮らしや社会の中で役立ち，表現する喜びを感じ，自己の存在意義を確認することでもある。このような子供の姿を目指して，「ときめき つくりだし つなげていく，私」をテーマとして研究を進めてきた。

2 子供の主体的な造形活動を目指して

(1) 感性を育む体験 ～ときめく体験～

「経験なきところからは想像は生まれてこない。想像力の源泉は豊かな経験である」と言われる。子供は，様々な体験を積み重ねながら感性を育てていく。TVやPCのような人がつくった道具を用いて，情報を一方向から，ただ受動的に入手するだけでは「人・環境・事柄」などへの実感はわきにくい。様々な「ひと・もの・こと」とつながり，働きかけ・働きかけられながら相互のかかわりの中で自らの感性が磨かれていく。

子供は，実生活・実社会，他の造形表現や各教科の活動等の既習学習，自分が過去につくった作品・他者の作品など（外的刺激）の経験から，自己の記憶・願い・夢・想像などを生みだし，そこから自分の新しいイメージを膨らませて（内的思考），表現内容を明確にしていくことができる。その際に，「表現内容（何を）」、「表現材料（何で）」、「表現方法（どのように）」などを工夫して，造形表現（外的表出）を行う。子供が表現する時，自己の経験を基盤とするため，様々な対象とのつながり，経験値が発想の幅を広げていく。また，自分の体全体を使ったり，五感を働かせたりして主体的につながり，体験することで知恵や技能が身に付き，本来，内在している能力をも引き起こされる。発想や構想は，幼・小・中・高と発達段階に応じて感覚・知的体験が積み重ねられることによって広がり，子供の感性を豊かにし，思考力・判断力・表現力なども深化させていく。



〈図1 造形活動における「私」と対象のかかわり〉

(2) 創造的価値をつくりだす活動 ～私だけの表現～

子供が能動的・主体的に取り組むとは、その活動に熱中することである。子供を熱中させるためには、題材が子供にとって魅力的であるとともに、子供自身の目標・目的を見い出させること（表現内容）、素材の性質や特徴を生かさせること（表現材料）、形や色、光などの性質や効果を理解し、表現を具現化するための用具や技法など、基本的な知識・技能を習得させること（表現方法）が必要であろう。つまり、「表現内容」・「表現材料」・「表現方法」の基礎・基本を習得させ、活用する能力を培っていくことである。

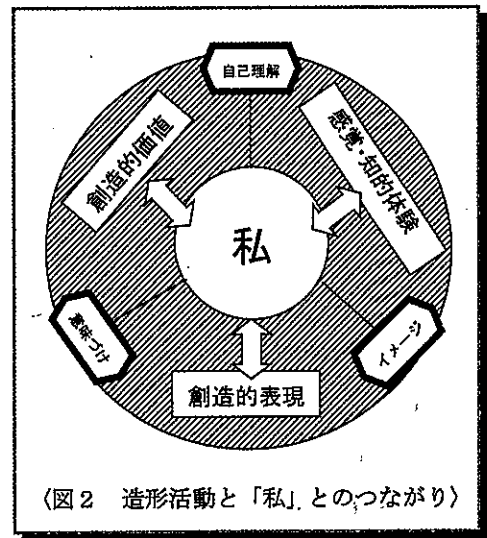
子供は題材に対して、経験をもとにイメージを構築するとともに、表現意図に応じて、「表現内容」・「表現材料」・「表現方法」を、どのように生かしていくのかを判断し、選択しながらも絶えず見直し、工夫修正していく。その際、自由に表現できる知識や技能が備わっていれば、試行錯誤し、追求しようとする能動的・主体的な表現活動となる。当初の着想・発想・構想から再考・熟考され、繰り返し練り上げていった結果、作品が変容し、具現化される。そして、自分自身のこだわりのある「私だけの表現」ができたとき、子供はつくりだす喜びを味わい、「もっとやりたい」という意欲が湧きおこり、さらに熱中できるのである。

幼稚園・小学校において身に付けてきた形や色・材料などの特徴把握や造形感覚、中学校や高校での生活や環境の中の美術の働きを理解する知的学習は、自分の気持ちや伝えたい内容などの形や色・材料などを生かして、他者や社会にかかわり生かせる表現力（ビジュアル・コミュニケーション能力）として重要視されている。子供は苦勞して納得のいく作品をつくりだしたとき、達成感や充実感を味わうが、「私だけの表現」としてつくる喜びを実感するのは、題材から本当の自分自身の主題を見つけ、ビジュアル言語を活用し、自分がつくりだした作品の中によさや美しさを見いだしたときであろう。また、友達や作家など他者の作品について、その作品の中によさや美しさ、作者の思いや考えなどの内面に共感できたときでもあろう。子供が、表現や鑑賞の活動に自己内対話しながら作品への自分の意味づけができたとき、「自己を確認し、他者を理解する」活動へと発展させることができるのではないだろうか。

(3) 生活や社会とかかわっていく造形活動 ～つなげていく力～

子供は、生活や社会の中の自らを取り巻く環境や事象、実体験でのつながりを通して知識や技能を身に付けていくとともに、感性を高めていく。このような体験・経験を基盤としながら、造形活動において自らの思いや願い、考えを「表現内容」「表現材料」「表現方法」とのかかわりによって表出し、豊かな創造性を培っていくのである。幼児期は、自分の感じたことや考えたことをストレートに表現するが、児童期では意図をもって自分の表現を行おうとするようになる。また、思春期では様々な表現活動を通して自己を確認したり、生活や社会の中での作品の役割や心情を汲み取り、自分なりの価値意識を構築することができるようになる。青年期では、自己の存在を深く見つめ、文化の価値を認識し、創造・継承することにも目を向けるようになる。つまり、生活や身近な地域からわが国や諸外国の美術文化の特徴やよさを感じ味わうとともに幅広く理解することから次世代へと継承していくとともに、生涯にわたり美術を愛好する心情や態度の育成へと発展させていく。

造形活動が、子供たちにとって、幼・小・中・高それぞれの発達段階に応じて系統的な学びとなり、自らが主体的に「ひと・もの・こと」とつながりを持ち、自らを創り、自らの未来へとつなげていく活動となることを期待する。



〈図2 造形活動と「私」とのつながり〉

記念講演・講師紹介

◆講師 岡田 京子 先生

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

東京都公立小学校教諭，主任教諭，学習指導要領図画工作解説書作成，評価規準の作成のための参考資料作成，特定の課題に関する調査などに携わり，平成23年度より現職。

著書に，「わくわく図工レシピ集」「子どもスイッチ ON!! 学び合い高め合う造形遊び」等がある。

◆演題 「表現や鑑賞の活動で育む，子供の資質・能力」

- MEMO -

会場紹介

精華幼稚園



鳴門市撫養町立岩字内田73

TEL・FAX 088-686-4558

徳バス岡崎海岸口下車 徒歩5分

JR 四国鳴門駅下車 徒歩15分



教育目標

幼児一人一人の望ましい発達を促す環境の中で、豊かな生活体験を通して、生きる力の基礎を培う。

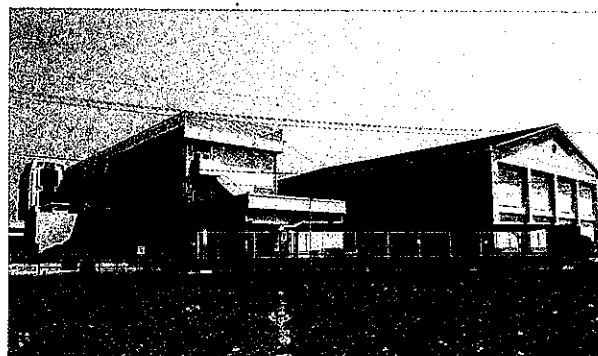
鳴門市の東端に位置し、妙見山公園を中心に阿波の東玄関撫養港と塩田を中心に発展した町である園庭が小学校中庭と隣接していることもあり、小学生との交流が自然にできる環境で親しみや憧れの気持ちをもって生活している。

鳴門市里浦小学校

鳴門市里浦町里浦字西浜401番地

鳴門市地域バス粟津行き里浦小学校前 3分

児童数(学級数) 133名(9学級)



校訓 「自主・勤勉・協同・感謝」

教育目標

- 1 知・徳・体の調和のとれた健康で豊かな人間性をもった児童を育てる。
- 2 人権を尊重し、自主性・社会性・創造性に富んだたくましい児童を育てる。

めざす児童像	さ…………さわやかでたくましい	里浦っ子
	と…………ともだちも自分も大切にする	里浦っ子
	う…………うつくしい環境	里浦っ子
	ら…………らんらんと学び続ける	里浦っ子

本校は、1878(明治11)年に創立された。1968(昭和43)年に里浦南小学校と統合し、現在に至る校区は鳴門市の東部に位置し、校区の面積は9.55km²、世帯数約1,460戸、人口約3,900人を数える。

学校周辺には、南北に広い畑地が延びて、広くさつまいも、大根などが栽培され、特にさつまいもは、「なると金時里むすめ」の名称で特産品となっている。南部の粟津港を拠点とする漁業地帯では昔から鳴門わかめの生産が盛んである。

北部と西部には、大塚グループとナンカイテクナートの工場がある。近隣には鳴門大塚スポーツパークもあり、スポーツの各種大会が開催されている。

児童は素直で明るく、勤労精神に富んでいる。専業農家の三世代同居家庭も多く、保護者や地域住民はとても勤勉で教育熱心であり、学校にもたいへん協力的である。

鳴門市第二中学校

鳴門市撫養町立岩字内田150番地
徳島バス北泊線林崎下車 7分

校 訓 「誠」

教育目標

- 1 人権を尊び、いきいきとたくましく生きる力
や自主性・創造性に富んだ人間性豊かな生徒
を育成する。
- 2 基本的な生活習慣の確立を図る。

生徒会自主目標 「ナルニ運動」を徹底します。

ナ なかよく協力 ル ルールの徹底 ニ にこやかに挨拶



徳島県立鳴門高等学校

鳴門市撫養町斎田字岩崎135-1
JR 四国撫養駅下車 徒歩5分
徳島バス鳴門郵便局前下車 徒歩10分

校 訓 「誠実・勤勉・質実・剛健」

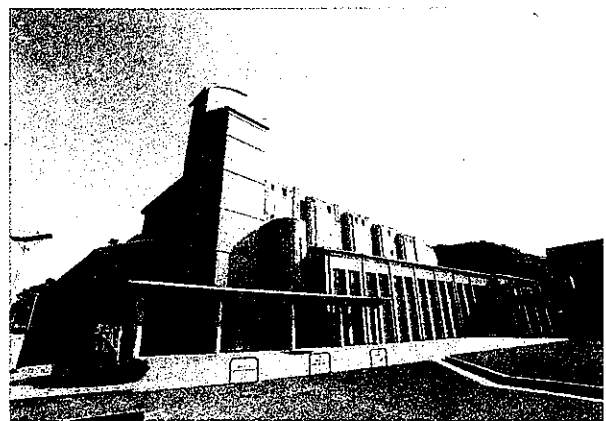
教育方針

- 1 すべての教育活動をとおして、生徒の良さや
可能性を最大限引き出して育てる教育の推進
- 2 生徒・教職員が「夢をかたちに」できる魅力ある学校づくり
- 3 清潔感のあるさわやかな学校づくり

学校の概要

沿革

- | | |
|----------|----------------|
| 明治41年8月 | 徳島県立撫養中学校設置認可 |
| 昭和23年4月 | 徳島県鳴門高等学校設立 |
| 昭和31年4月 | 徳島県立鳴門高等学校と改称 |
| 平成16年11月 | 新校舎落成記念式典挙行 |
| 平成21年11月 | 創立100周年記念式典を挙行 |



幼稚園部会

テーマ解説・公開保育・提案発表



「みんなで大鳴門橋を作ろう」 精華幼稚園 5歳児・共同製作

出会い かかわり とともに楽しむ

1 主題設定にあたって

幼児を取り巻く生活環境の変化に伴い、地域で豊かな自然に触れて遊ぶ機会や、遊びの中で考えたり工夫したりする機会が減少している。また、身の回りの豊かな環境に触れいろいろな素材や用具を扱い、工夫して作りだす経験も少なくなっているように思われる。幼児は、環境から刺激を受け、環境に働きかけ、環境と応答しながら、五感を通して感じたことや思ったことを表現したり探求したりする。そこでは、幼児が身近な「もの」や「こと」との出会いを楽しみ、触れたり、まねたり、形づくったり、自由な発想で自分らしく表現する。

このようなことを踏まえ、幼稚園においては、まず、幼児が意欲的に身近な環境に思う存分かかわることを大事にしたい。幼児がかいたり、つくったりするまでには、たくさんの気付きや感動、工夫や試行錯誤があるのではないだろうか。形となって表現されたものには、幼児が何と出会いどのようにかかわり楽しんだか、その子どもの心の動きやその子だからこその表現がある。その過程やその子らしさを大切にしながら、共に表現する楽しさを味わうことができるようにしたい。また、幼児期だからこその表現内容や表現方法、豊かな素材体験を幼稚園での生活や遊びのなかに織り込んでいくことも重要だと考えている。

そこで、「出会い かかわり とともに楽しむ」を研究テーマとし、そのために必要な環境構成や教師のかかわりについて探っていきたい。

2 主題についての考え方

(1) 「出会い」とは

幼児が環境に思う存分かかわり、自分らしく表現しようとするようになるには、豊かな環境が必要である。豊かな環境との出会いは、幼児の心を揺り動かし、自ら表現したいという意欲を生む。出会いの場を友達と共有することも大切にしたい。教師は、園の環境を生かし、意図的・計画的に環境を構成することが重要である。また、心を開いて身近な環境と出会うことのできる安心感は、教師との信頼関係を基盤に育まれる。幼児の心の動きを

受け止め、幼児らしい表現を支える教師のかかわりが大切である。

(2) 「かかわり」とは

幼児は出会った環境に働きかけ、自由な発想で遊びながら表現していく。見立てたり、組み合わせたり、かいたり、つくったりと、繰り返し環境にかかわることで、豊かな心情や感性が生まれ、自分の心の動きを表現する素材や表現方法が多様になっていく。また、友達と一緒に環境にかかわり遊ぶことで、新しい発想が生まれたり、イメージを共有したりしながら、遊びが発展していく。

教師は、幼児の表現から、友達や環境とどのような関係を結んでいるのかを見取ることが大切である。幼児が十分に環境とかわることのできる自由な空間や時間と、幼児の心の動きやイメージを受け止め、幼児に添いながら支えることのできる教師の援助を考えたい。

また、この環境と繰り返しかかわり表現していく過程に見られる「表現力の芽生え」をていねいに積み重ねていくことも大事にしたい。

(3) 「ともに楽しむ」とは

遊びが発展していく過程で、共通の願いや目的が生まれ、工夫したり協力したりしながら表現をつくりあげていく幼児の姿が見られることがある。そのなかで、互いにアイデアを出し合い、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現へと高まっていく。また、目的やイメージを実現するために、素材を工夫して活用したり、好きな表現方法を見付けたり、新しい想像の世界を楽しんだりするようになる。集団での遊びの楽しさ、協同的な表現の醍醐味を味わうことで、幼児の満足感や達成感は膨らんでいく。協同的な表現活動は、幼児の表現の幅を広げ、新しいものを創り出す力につながっていく。

教師は、幼児の発達や互いの関係性を見極めながら、協同的な表現活動へと発展していくかかわりを考えたい。また、園の行事や地域の出来事を協同的な表現活動のきっかけと捉え、指導計画に組み込むことも大切である。

「おもしろそう やってみよう！」～かかわりをくり返しながら～

1 出会い かかわり とともに楽しむ姿（7月初旬頃）

- 空き箱や新聞など保育室にある身近な素材とのかかわりをもとに、教師が意図的に用意した初めて触れる素材にも興味関心をもち、「これ使っている？」と遊びに取り入れていこうとする姿が見られる。箱や紙をつなげたり丸めたりちぎったりしながら、偶然できた形から「ワニみたい。」「これ、たこ焼き。」など、子どもの身近な生活体験からイメージを膨らませて表現することを楽しんでいる。「これ、手でちぎれない。」「セロテープだと箱がすぐに外れてしまう。」など何度も試行錯誤を繰り返すうちに、素材の性質やよりよい使い方に気付く姿が見られる。
- 一つの手づくりマイクから始まった廊下でのステージ遊びでは、同じ保育所からの友達を中心に一緒に遊ぶ姿が見られるようになり、曲が流れると興味のある子がその場へ行って踊り、かかわりの少ない友達とも遊びを楽しむようになった。一緒に遊ぶことが増えるにつれ、「僕はこの曲がいい。」「〇〇ちゃんと一緒にしたいのに。」など、思いがぶつかる場面も見られたが、教師が仲立ちとなることで、子ども同士で思いを伝えながら遊ぶ姿が見られるようになってきた。「〇〇くん、一緒に踊ろう。」「この衣装、私も作りたい。どうやるん。」など、友達と動きを合わせながら踊ったり、衣装や小道具を教え合ったりするなど、友達と一緒に表現することを楽しんだり、友達の表現を自分の表現に取り入れたりしている。
- 園庭でカタツムリやカニを見付けたことに感動し、数人の子どもたちが飼育を始めた。教師や友達がかかわっている様子に刺激を受けて、登園時に飼育ケースをのぞき込んだり、「僕にも見せて。」と集まってきたり、関心をもってかかわる子どもたちが増えてきた。やがて、「先生、大きいカタツムリがキュウリ食べた。」「見て！緑のウンチしてる。」「カニって、はさみでご飯もってる。」など、気付いたことや不思議に思ったことを互いに伝え合う姿も見られるようになってきた。カタツムリやカニへの親しみや愛情が芽生えはじめた子どもたちと、この触れ合いを題材にした製作活動に取り組んだ。「カタツムリのお家はぐるぐるなんよ。」と殻の部分に渦巻きを描いたり、「カニの足に毛がある。」と毛を描き込んだりする姿が見られ、壁面に掲示した時には、「〇〇くんのカタツムリがお散歩してる。」「カエルも雨が好きだから仲間に入れてあげよう。」など、友達の表現から更にイメージを広げたり、生き物に親しみを感じたりする様子が見られた。

2 保育にあたって

一人一人がこれまでの経験をもとに遊びを楽しむなかで、思いや考えを自分なりに表現したり友達とかかわったりしながら、感じる心や想像力を豊かにし、表現する楽しさが味わえるようにしていきたい。

3 ねらい

- 友達とかかわるなかで、自分の思いやイメージを膨らませたり表現したりする楽しさを味わう。
- 秋の自然物にかかわりながら、美しさに気付いたり遊びに取り入れたりして楽しむ。

4 予想される内容と教師の援助

予想される内容	教師の援助
○秋の自然物で遊ぶ。 ・落ち葉やドングリなどを遊びに取り入れる。	・幼児の繰り返し試してみる姿や不思議に思う声を大切にし、身近な自然への親しみや興味関心へとつなげていく。
○身近な素材を使って遊ぶ。 ・自分なりに試したり工夫したりして表現しようとする。	・幼児がイメージを表現しようとする姿を温かく見守り、自分なりに工夫する姿を認めたり、教師も一緒に考えたりしながら、自分なりに表現できた満足感を味わえるようにする。
○友達と一緒に遊ぶ。 ・自分の考えを友達に伝えたり相手の思いを聞いたりする。	・互いの刺激となるように、教師自身が幼児のよいところや遊びの姿を積極的に認めたり知らせたりしながら、いろいろなことに興味をもって自分もやってみようとしたり、互いの思いや考えを伝えたりできるようにする。

「おもしろそう やってみよう！」～伝え合い イメージを広げながら～

1 出会い かかわり とともに楽しむ姿（7月初旬頃）

- テラスやホール、年少児の保育室など活動範囲を広げ、友達を誘って出かけて遊ぶようになった。積み木を基地に見立てたり、ごっこ遊びをしたりするなかで手裏剣づくりを頼ってきた年少児を、自分たちの保育室へ誘い、作ってあげるなど、異年齢でのかかわりも見られるようになった。一緒に手裏剣を的に投げたり身に付けたりして忍者の動きを楽しんだことから、忍者修行の場は園庭にも広がっていった。板にじやりをかけて音を鳴らしたり、大鳴門橋に見立てた一本橋にビニールを組み合わせ水の中の生き物を描いたり、忍者修行のイメージを広げながら表現を楽しんだ。また、生き物を描き込んだビニールを持ち上げた際には、差し込む太陽の光に自分たちの描いたカニや魚などが地面に映り、「わぁ、泳いでいるみたい。」と歓声をあげた。このような心躍らせる体験や新しい発見が、描いたり作ったりすることへの興味を高め、表現することへの意欲につながっている。
- 園庭やテラスでは色水遊びに興味をもち、植物の種類や色の出し方、色の濃淡などの違いに気付きながら、思い思いのイメージでジュースやパフェに見立ててそのものらしい表現を楽しんでいる。できた色水をコップに注ぎ、サルビアやランタナなどの花や葉っぱを浮かべ、その美しさを感じることで感性の育ちにつながっている。また、マキの実やハゼノキの種を集め、互いに共有しながら一緒に遊ぶことで仲間関係も深まっている。友達と考えを出し合って遊ぶことを通して、いろいろな表現方法を知ったり、イメージを膨らませたりするなど、表現の幅が広がっている。
- 新聞紙でけん玉を作って遊んだことがきっかけとなり、家やロボット作りなど製作への興味が高まってきている。空き箱やカップ等の身近にある素材を取り入れて、「ここ、台所にしよう。」「これを引っ張ったら動くんよ。」と自分のイメージを伝える姿が見られるようになった。そこで作ったものについて発表する場を設けたところ、友達のしていることに刺激を受け、教えてもらいながら3～4人で一緒に作って遊ぶ姿が見られるようになってきた。このようなかかわりを通して、友達のよいところに気付き考えを取り入れたり、力を合わせたりして取り組む協同性の芽生えが感じられる。

2 保育にあたって

幼児が美しさや不思議さ、面白さなどを豊かに感じられるように、教師自身が感性豊かであるとともに、身近な自然環境を生かした様々な直接体験を通して、共通のイメージをもって協力しながら表現できるような環境構成を考えていきたい。

3 ねらい

- 友達と共通の目的に向かって、思いを伝え合いながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 秋の自然物を遊びに取り入れ、試したり工夫したりしながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

4 予想される内容と教師の援助

予想される内容	教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然物を取り入れて遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・試したり工夫したりしながら、イメージを膨らませて様々に表現する。 ○互いの思いや考えを出し合いながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えや気持ちに気付いたりする。 ○友達と同じ目的に向かって、協力しながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力を発揮したり、友達と力を合わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作りたいものが作れた喜びに共感するとともに、周りの幼児にも知らせ、それぞれが刺激を受けたりイメージを膨らませたりしながら遊びに取り組めるような環境構成をしていく。 ・友達と一緒に試したり工夫したりしながら遊ぶ中で、友達のよいところや面白いアイディアに気付くことができるようにかかわり、認められた嬉しさや充実感を味わえるようにする。 ・友達と協力して遊びが進められるように、教師も仲間になって遊びながらルールを相談したり役割を決めたりできるようにしていく。 ・今までに使ったことのある素材や新しく見付けた秋の自然物などを使いやすく整理し、遊びに必要なものを選択できるような環境構成を工夫する。

提案発表主題

「幼児が自分らしく友達とともに表現を楽しむための 環境構成や教師のかかわりについて」

1 提案要旨

幼児は毎日の生活の中で、身近な周囲の環境と五感を働かせて直接かかわる体験を重ねていく。そのときに感じたり、イメージしたり、自分なりに表現したりすることによって、創造性を豊かにしていく。さらに、自分の表現が教師や友達に受け入れられ、思いを共有してともに表現を楽しむことで、コミュニケーションが図られ、より表現する喜びを感じ、表現への意欲を高めていくようになる。

本園は、園庭の檜の木をはじめ様々な樹木や植物が季節を感じさせ、園の周辺は田園風景が広がっており、園内外の自然環境に恵まれている。その環境を十分に活かし、幼児が身近な自然という魅力的な環境に直接かかわり、不思議さやわくわくするといった感情を伴う体験をすることを活動の中心に位置付けたいと考えた。さらに、一人一人が自分らしく表現することを楽しみ、友達とかかわることによってイメージが広がり、表現する楽しさをともに味わってほしいと願っている。そこで、幼児期に豊かな感性や自己を表現する意欲を育むために、環境構成と教師のかかわりはどうあるべきかを探っていくことにした。

2 実践例

(1) 自然環境にふれて

身近な自然環境や季節ごとの自然事象との出会いによって、不思議に思ったりわくわくしたりする体験を大切にす。

○鳥の巣・鳥の卵づくり ○氷のアート

○身近な生き物の絵 ○落ち葉や実を使って

(2) 自分の好きな表現の仕方を見つけて

幼児のイメージや実現したいことを大切に、様々な素材や用具を環境として準備・再構成をする。また様々な表現の方法を提案し、一緒に体験することで幼児自身が表現方法に気付き、試したり工夫したりすることを促していく。

○様々な素材や表現方法での遊び

(3) 友達とともに創りながら

身近な生活やアニメのイメージから生まれる遊びや共通体験から見たこと、おもしろかったことなどを受け止め、友達と一緒に創ることを通して楽しさを引き出していく。

○おばけやしき ○お家づくり

○遠足の道づくり

3 まとめと今後の課題

(1) 研究の成果

- ・幼児にとって身近な自然は、日頃から愛情や愛着を感じる対象である。同時に、予想しない現象が起こる驚きや意外性、生命の生長、変化への発見や感動をもたらしてくれる魅力的な環境である。身近な自然を様々な活動に積極的に取り入れることで、一人一人が表現するおもしろさや充実感をもち、表現する意欲へとつながっていった。
- ・教師が幼児のイメージに寄り添って、素材などの環境の再構成を繰り返していく中で、幼児が自ら必要な素材を選んだり、教師に要求したりするなど表現のきっかけが幼児主体となっていった。
- ・表現活動を通して、使う素材や道具、使い方などを工夫することで、より自分のイメージするものに近づけようとする意欲的な姿が育ってきている。
- ・友達とともに創ったり表現したりする経験を積んでいく中で、友達のアイディアや新たな工夫を受け入れたり共感したりして、表現が豊かになっていく様子がみられた。

(2) 今後の課題

- ・幼児の表現から幼児の思いを読み取ることに、同じ目線に立ってものを見つめたり、継続して記録を取り、振り返りをしたりするなど、教師自身の見方を養う。
- ・幼児の主体性と教師の指導や環境の構成の意図とのバランスを考え、幼児の思いを引き出す受容的なかかわりをしていく。
- ・実践を通しての幼児の姿から、自らの指導計画を見直すとともに、身近な自然や地域環境などを活かした、幼児に経験してほしい内容を精選する。
- ・教師自身が、園内外の自然環境などに意識的に目を向け、日頃からの自然に対する気付きや感性を豊かにしていくように努める。
- ・幼児の表現意欲が高まっていく中で、教師自身が様々な表現方法や用具、遊具などを指導の見通しをもって準備したり、素材の特性や活用の仕方などを幅広く研修したりしていく。

小学校部会

テーマ解説・公開授業・提案発表



「ひらいてみると」 里浦小学校6年

かかわり つながり 自らつくりだす造形活動 ～主体的な造形活動を支える指導方法の工夫・改善～

1 はじめに

図画工作科においては、表現や鑑賞の活動を通して、確かな表現を支える造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるとともに、子供たちに、つくりだす楽しさや喜びを十分に味わわせるようにしていきたい。

ものづくりに没頭する子供たち、製作途中の作品をじっと見てはかいたり、つくったりすることを繰り返しながら試行錯誤している。そこには、進んで材料などに働きかけ、見付けたことや感じたことを基に、思考や判断をし、自分の思いの実現を図ろうとする子供の姿がある。このように、子供は今まで自分が培ってきた知識・技能を活用して「つくる」。そして、つくりながら新たな考えや思いをもち、思考・判断し「つくりかえる」。この「つくる」「つくりかえる」の連続した学びの過程があって、自ら新しい形や色をつくりだしていくのである。この学びの過程を大切に、子供たちにつくりだす喜びや達成感・自己肯定感を味わわせていきたい。さらに自分の欲求を満たすとともに、自分の存在を感じながら生活や社会へと主体的にかかわる態度を育てたい。

2 主題設定にあたって

「自らつくりだす造形活動」とは、表現と鑑賞の活動において、子供たちが形や色などから感じたことを基に自ら働きかけ、自分で新たな意味や価値を主体的につくりだす創造的な活動である。例えば、身近な材料の組み合わせ方を試しながら、形や色、イメージに合った組み立て方を工夫してつくりだしたりすること等である。そこでは、見たり感じたりする力、形を考える力、用具を選び、表現方法を自ら工夫する力などが働いている。そして、何より、つくりだす喜びを味わっている。このように表現と鑑賞の活動において、子供たちは常に形や色などから感じたことを基に、思考・判断、自己決定を繰り返している。その思考・判断において、自分の感覚や感じ方、表現の思いなど自分の感

性を十分に働かせることで自分らしい表現をつくりだしていく。つまり、表現を自らつくりだしていくためには、表現と鑑賞の活動において自らが思考・判断し、自己決定をしていくようにすることが大切である。

しかし、そのためには、子供が自ら「表現内容」、「表現材料」、「表現方法」に主体的にかかわり、表現や鑑賞活動を通して、友達や周りの人々と互いの思いを交流し合い、自分の周りの「ひと」「もの」「こと」につながっていく造形活動を展開していく必要がある。また、ものづくりの楽しさを子供が実感できるような授業の工夫・改善が求められている。

これらの課題を解決するためには、「つくる」「つくりかえる」との連続した学びの過程を問い直し、「どのように授業を工夫・改善すれば子供が自ら感性を働かせて、主体的に『表現内容』、『表現材料』、『表現方法』にかかわり、造形的な創造活動の基礎的な能力を培うことができるのかということ」と、「どのように表現や鑑賞の活動の過程を工夫・改善すれば、子供がつくりだす喜びを味わい、自分の周りの『ひと』『もの』『こと』につながり、主体的に造形活動に取り組もうとする態度を育てることができるといこと」について解明する必要があると考え、本主題を設定した。

3 研究内容

次のことについて、これまでの指導内容や方法を検証し、具体的に工夫改善を行う。

- 発達の段階や系統性を踏まえた指導計画の作成
- 主体的な造形活動を支えるための指導方法等の改善
 - ・表現と鑑賞の関連を図った授業づくり
 - ・子供が表したいことへの考えや思いをもつための指導方法の工夫
 - ・表したいことを支えるための指導方法の工夫
- 指導に生きる評価の工夫

題材名「わくわく だんだんランド ～だんボールのへんしん～」

〈A 表現（1）造形遊び・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本題材は、段ボールの折れ曲がった形や大きさから発想を広げ、思い付いたことを表していく造形活動である。材料の段ボールは箱の一辺を切って開いた状態で児童に与える。折れ目が残っていることで、容易に立たせることができ、広げると大きな面となる。広い空間で、大量の大きな段ボールに体全体でかわらせることで、大きさや丈夫さといった特徴や折り曲げたり、つないだりして形づくる面白さを感じ取っていくであろう。このように、身近な材料に体全体でかわかってイメージを広げ、自らの思いを形づくっていく楽しさを味わわせることができる題材である。

本学級の児童は、絵をかいたり、ものをつくったりすることが好きな児童が多く、みんなが図画工作の時間を楽しみにしている。7月には、お菓子等の空き箱を使って、並べたり、積んだりする造形活動を行った。箱をどんどん並べて長い道をつくったり、高く積み重ねてお城をつくったりして、活動しながら思い付いたことを表していくことの楽しさを感じ取ることができた。

指導に当たっては、体全体を使って伸び伸びと思いを実現できるような環境や他の児童とのつながりが生み出されるような場を設定することで、児童が感覚を十分働かせながら、思いを広げて表すことができるようにしていく。常に、一人一人の思いを受け止め、共感したり励ましたりしながら、児童の思いに寄り添っていきたい。そして、互いの表現を認め合い、表現を通して他とつながっていくことで、自らつくります喜びを味わわせていきたい。

2 題材の目標

- 体全体を使って、大きな段ボールの特徴を感じながら、広い空間で活動することを楽しむことができる。
- 開いた段ボール箱の形や、並べたりつないだりした形から自分がしたいことを思い付いたり考えたりすることができる。
- 段ボールをテープで接着してつないだり、用具を用いて切ったり穴を開けたりして、つくり方を工夫して表すことができる。
- 感じたことを話したり、友達から聞いたりして、段ボールで形づくる楽しさや活動の面白さを感じることができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
体全体を使って、大きな段ボールの特徴を感じながら、広い空間で活動することを楽しもうとしている。	開いた段ボール箱の形や、並べたりつないだりした形から自分がしたいことを思い付いたり考えたりしている。	段ボールをテープで接着してつないだり、用具を用いて切ったり穴を開けたりして、つくり方を工夫している。	感じたことを話したり、友達から聞いたりして、段ボールで形づくる楽しさや活動の面白さを感じている。

4 指導計画（全2時間）

第1次 段ボールを使って、思い付いたことを楽しく表す。…2時間（本時2/2）

5 本時

(1) 目標 開いた段ボールを工夫して、並べたり、つないだりするとともに、形づくる楽しさや活動の面白さを感じることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の学習活動やめあてを確認する。	○前時の活動を振り返り、本時の活動のめあてをもたせる。		
2 身近にある段ボールをつかって、工夫して並べたりつないだりして活動をする。	○段ボールを工夫して、立てたり、つないだり、囲んだりして、思いのままに活動できるように助言する。	段ボールをテープで接着してつないだり、用具を用いて切ったり穴を開けたりして、つくり方を工夫している。 【創造的な技能】	観察 対話 発言 表現
3 本時の学習を振り返り、自分や友達の表現のよいところを見付ける。	○様々な視点からみせることで、互いの表現を楽しみながら、よさや工夫に気付くことができるようにする。	感じたことを話したり、友達から聞いたりして、段ボールで形づくる楽しさや活動の面白さを感じている。 【鑑賞の能力】	観察 対話 発言

題材名「ピコリン星 ゆめのステージ」〈A 表現(2)工作に表す・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本題材は、これまでの経験を生かして、形や色、材料の組合せや飾り方などを試しながら、自分の夢や思いをふくらませて、つくりたいものを工夫して工作に表す活動である。材料には、透明容器や使い捨てカップ、リボンや梱包材など児童にとって身近な材料を使う。児童が材料に働きかけて表し方を工夫したり、材料の組合せや飾り方の面白さを見付けたりしながら、友達とつながり合ってつくる楽しさを味わうことが期待できる題材である。

本学級の児童は、明るく素直で、何事にも興味をもって積極的に取り組むことができる。図画工作は好きで、毎時間の造形活動を楽しみにしている。5月に学習した「ゆめのまち なかよしランド～おってたてたら～」では、自分がつくってみたいもののイメージをもって、表現を工夫して楽しむことができた。また、具体的な支援や励ましを必要とする児童も、この活動を通して、表現することの面白さや、友達とつながる楽しさを感じることができた。

指導に当たっては、ピコリン星人に自分の思いを重ねて、豊かに発想して表現できるように学習環境を整えたい。具体的には、様々な材料を用意し、児童が自分の表現に合わせて選んで使うことができるようにする。また、それぞれの夢や思いが見る人によく伝わるようにイメージの違うステージを設定する。児童が自分の思いをどんどん伝え合い、友達とつながりながら試したりつくり直したりし、自分や友達の表現のよさを見付け、新たな発想ができるようにする。そして、みんなで「ピコリン星 ゆめのステージ」をつくりだしていく喜びを味わわせたい。更に、つくったものを紹介し合うことで、ピコリン星の世界を共有させたい。このような造形活動によって児童に達成感や自信をもたせ、友達とつながりながら、楽しく活動に取り組めるようにしたい。

2 題材の目標

- ピコリン星人をつくったり、夢のステージで紹介したりすることを楽しむことができる。
- 自分の夢やあこがれ、してみたいことや材料などから、表したいピコリン星人や夢のステージの様子を思い付くことができる。
- 材料の特徴やこれまで経験したつくり方を生かして、表し方を工夫することができる。
- 作品の紹介の仕方を工夫しながら、自他の作品のよさを見付けることができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
ピコリン星人をつくったり、夢のステージで紹介したりすることを楽しくもっている。	自分の夢やあこがれ、してみたいことや材料などから、表したいピコリン星人や夢のステージの様子を思い付いている。	材料の特徴やこれまで経験したつくり方を生かして、表し方を工夫している。	作品の紹介の仕方を工夫しながら、自他の作品のよさを見付けている。

4 指導計画（全5時間）

第1次 ピコリン星人をつくって紹介し合うことを知り、表したいピコリン星人を考える。

…1時間

第2次 材料やつくり方を工夫して、ピコリン星人や夢のステージをつくる。…3時間（本時2/3）

第3次 作品の紹介の仕方を工夫して、互いの表現のよさを見付け合う。…1時間

5 本 時

(1) 目 標 形や色などの材料の特徴や組合せを工夫して、ピコリン星人や夢のステージをつくることができる。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○前時までの活動を確認し、本時の活動のめあてをもたせる。 ○用具の使い方を確認する。	材料の特徴やこれまで経験したつくり方を生かして、表し方を工夫している。 【創造的な技能】	観察 対話 表現 発言 発表
2 材料やつくり方を工夫して、ピコリン星人や夢のステージをつくる。	○児童一人一人の思いに寄り添いながら、思い付いたものを表すことができるように助言する。		
3 本時の活動を振り返り、次時への意欲をもつ。	○友達作品から、形や色、材料の組合せの工夫に気付かせ、次時の活動への意欲を高める。		

題材名「とびだせ！ふしぎな世界へ！～まほうのとびらをあけると～」

〈A 表現（2）絵に表す・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本題材は、扉の向こうに広がる不思議な世界を想像し、表し方を工夫しながら絵に表す活動である。自分だけの魔法の扉の向こうにはどのような世界が広がっているのか自由に想像し、自分の思いに合った不思議な世界を表現していく。扉の向こうの世界だけでなく扉自体にも工夫を施すことでより楽しい絵になることに気付かせ、想像力や発想力を生かしながら表現することの楽しさを味わうことができると考える。

本学級の児童は、図画工作の好きな児童が多く、意欲的に活動することができている。しかし、つくりたいものやかきたいものが思い浮かんでも、思いを素直に表現できない児童もいる。特に、絵に表す活動において、自分が一番かきたいものを十分表すことができない児童が多い。そこで、6月に学習した「つたえたい！あの気持ち！」では、どうすれば自分の表したい気持ちや場面の様子が相手に伝わる絵になるかを考えながら活動に取り組んだ。どの児童も、大きさや配置に気を付けて活動を進めることができ、気持ちや様子の伝わる絵が仕上がった。

指導に当たっては、不思議な世界やその世界へつながる扉を、自由に楽しく想像させたい。また、扉の向こうに広がる世界と扉とを照らし合わせながら、不思議な世界へのイメージをふくらませられるようにする。扉の形や開き方から、不思議な世界との連続性やギャップなどの世界と扉との関連も考えさせ、児童一人一人が自分の思いに合った表現ができるようにしたい。

2 題材の目標

- 扉の向こうに広がる世界や魔法の扉を想像し、絵に表すことを楽しむことができる。
- 扉の向こうに広がる世界や魔法の扉の様子を想像し、表したいことを考えることができる。
- 表したいことに合わせて、かき方や身近な材料の使い方を工夫することができる。
- 自分や友達のかいた絵を見て、面白さや楽しさを味わうことができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
扉の向こうに広がる世界や魔法の扉を想像し、絵に表すことを楽しもうとしている。	扉の向こうに広がる世界や魔法の扉の様子を想像し、表したいことを考えている。	表したいことに合わせて、かき方や身近な材料の使い方を工夫している。	自分や友達のかいた絵を見て、面白さや楽しさを味わっている。

4 指導計画（全7時間）

第1次 扉の向こうに広がる不思議な世界や魔法の扉を想像し、絵に表したいことを考える。…1時間

第2次 想像した世界や魔法の扉がよく分かるように、工夫して絵に表す。…5時間（本時4/5）

第3次 でき上がった絵を鑑賞し、互いの面白さや楽しさを感じ取る。…1時間

5 本 時

(1) 目 標 不思議な世界へつながる魔法の扉の様子を想像し、伝えたいことがよく分かるように工夫して絵に表すことができる。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○前時の活動を想起させ、本時の活動を確認させる。		
2 不思議な世界へつながる扉を、工夫して絵に表す。	○児童一人一人の思いを大切にしながら、絵に表すことができるように助言する。	表したいことに合わせて、かき方や身近な材料の使い方を工夫している。 【創造的な技能】	観察 対話 発言 表現
3 本時の活動を振り返り、次時への意欲をもつ。	○友達作品から、面白いところや工夫に気付かせ、次時の活動への意欲を高める。		

題材名「自然からのおくりもの ～里浦の自然物をつかって～」

〈A 表現（2）立体に表す・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本題材は、「自分が無人島に漂着し、助けが来てくれるまでの数日間、島にある材料から住居や物見やぐらなど生き延びるために必要なものをつくる」という設定である。児童は「無人島で暮らす自分」についてイメージをふくらませ、枝や石、葉、木の実、芋のつる、貝殻などの地域の自然材を使って製作する。また、様々な自然材の組み合わせや表し方などを工夫させることでつくる楽しさを味わわせたい。

本学級の児童は、明るく活発であり、物事に意欲的に取り組むことができる。図画工作の時間を楽しみにしている児童が多く、つくった作品は一人一人の個性がよく表れ、お互いの作品のよさを素直に認め合うこともできる。7月の学習「まほうハウスへようこそ」では、黄ボール紙を水でふやかした後、素材の面白さを感じながら様々な魔法のかかった家をつくった。このような経験から、イメージをふくらませ、立体に表していく活動に楽しさを感じている。

指導に当たっては、どんな無人島に漂着したか、島での生活の様子を具体的に想像することで、生き延びるには何が必要かを考えさせたい。また製作の途中でイメージスケッチに書き加えていく活動を入れ、自分の作品を鑑賞し、もっとこうしたいという意欲をさらに高めていきたい。さらに、友達の工夫も見付け合い、つながり合いながら、ヒントを得て、自分の作品に生かせるようにしていきたい。

2 題材の目標

- 無人島での生活を想像しながら、自然材を組み合わせることを楽しむことができる。
- 自然材に触れて、島での生活に必要なものを発想したり、考えたりすることができる。
- 自分のイメージを基に、材料を選んだり、組合せ方や表し方を工夫したりしてつくることことができる。
- 自然材の特徴を生かした自他の表現のよさや楽しさを見つけることができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
無人島での生活を想像しながら、自然材を組み合わせることを楽しもうとしている。	自然材に触れて、島での生活に必要なものを発想したり、考えたりしている。	自分のイメージを基に、材料を選んだり、組合せ方や表し方を工夫したりしてつくっている。	自然材の特徴を生かした自他の表現のよさや楽しさを見つけている。

4 指導計画（全6時間）

- 第1次 無人島で生き延びるために必要なもののイメージスケッチをする。 …1時間
- 第2次 自分がイメージする無人島での生活を基に、材料を選び、表し方を工夫してつくる。 …4時間（本時2/4）
- 第3次 できた作品を鑑賞し合い、互いの表現のよさや面白さを味わう。 …1時間

5 本時

- (1) 目標 自分のイメージにしたがい、材料を選択したり表し方を工夫したりして無人島での生活に必要なものを楽しくつくることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○前時での活動を振り返り、作品を鑑賞し合う中で、本時の活動を確認する。 ○グルーガンの使い方を確認する。		
2 無人島で生活するために必要なものを材料を組み合わせながら製作する。	○友達表現を参考にさせたり、具体的な手立てを助言したりする。	自然材に触れて、島での生活に必要なものを発想したり、考えたりしている。 【発想や構想の能力】	観察 表現 発言 対話
3 本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。	○自他の作品を鑑賞し合うことで、お互いの面白さや工夫を認め合い、次時への意欲を高める。	自分のイメージを基に、材料を選んだり、組合せ方や表し方を工夫したりしてつくっている。 【創造的な技能】	観察 表現 発言 対話

題材名「里浦の農家さんを応援する守り神をあらわそう」

〈A 表現（2）立体に表す・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本校校区は県内有数のサツマイモ生産地であり、本学級児童の家庭もサツマイモ農家がとても多い。また、「鳴門金時」のブランドは全国的に有名で、児童にとっても愛着や誇りを感じさせるものとなっている。児童は、地元の農家さんの「鳴門金時」の栽培の工夫や苦労、思いを知るとともに、このような里浦小の環境にとっても親しみをもっているように感じられる。そこで、自分の家族や地域の農家さんを応援する守り神を作ることを通して、地元への愛情や農業への誇り、感謝の心などを更にもたせたいと考えた。材料には、可塑性に優れ、表現することに苦手意識のある児童にとってもなじみがある土粘土を使用する。自分が表したい守り神に近づくように構想し、自由に表現することでつくりだす喜びを味わうことが期待できる題材である。

本学級の児童は、明るく素直で、学習活動に一生懸命に取り組むことができる。図画工作が好きな児童が多く、図画工作の時間を楽しみにしている。しかし、自分の表現に自信がもてずに、表現方法や表現内容を何度も確認する児童も多い。6月に学習した「広がれ！マイストーリー」では、アート・カードを用いて自分だけの物語をつくり、発表したり友達の工夫を発見したりする鑑賞活動を行った。見て感じ取ったことを級友と交流し、それぞれの見方のよさを知り、感じ方の違いを楽しんだ。

指導に当たっては、郷土で活躍されている作家と連携し、作品づくりの際の思いや願い、製作方法などを話してもらう。そして、作家をモデルに、自分の製作過程に見通しをもったり、表したいものを形や色に置き換えたりする際のヒントにさせたい。また、適切な粘土や用具の扱い方について指導し、自分の考えや願いを基にアイデアを練り、材料を生かした表現をさせる。その後、表現した守り神を児童が大切に思っている場所に置いてデジタルカメラを使って撮影する。その写真と作品、アイデアスケッチなどから、自分の製作過程を振り返り自分の考えや意見を述べるとともに、友達と話し合う中で表現の意図や特徴をとらえさせたい。

2 題材の目標

- 農家さんを応援する守り神に対する思いや材料から感じた印象を基に、成形し表現する活動に興味をもって取り組むことができる。
- 材料を生かし、直感的に形にしたり、思い浮かべたイメージから形や色を導き出したりして、守り神の形や色を考えることができる。
- 感じたことや思ったことを形にしていくために、表現方法や用具の使い方を工夫することができる。
- 作家から学んだことを基に、自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、その意図や特徴をとらえることができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
農家さんを応援する守り神に対する思いや材料から感じた印象を基に、成形し表現する活動に興味をもって取り組もうとしている。	材料を生かし、直感的に形にしたり、思い浮かべたイメージから形や色を導き出したりして、守り神の形や色を考えている。	感じたことや思ったことを形にしていくために、表現方法や用具の使い方を工夫している。	作家から学んだことを基に、自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、その意図や特徴をとらえている。

4 指導計画（全7時間）

- 第1次 地区を取材して郷土のよさを発見したり、作家の作品を鑑賞したりして、表したい守り神のイメージをもつ。 …2時間
- 第2次 自分のつくりたい守り神を、材料や用具の使い方を工夫しながら表す。 …3時間
- 第3次 自分が大切にしたい場所に守り神を置き、写真を撮る。 …1時間
- 第4次 場所とつながらせた守り神の写真を鑑賞し、交流する。 …1時間（本時）

5 本時

- (1) 目標 自他の作品を見て交流し合うことで、表現の意図や特徴をとらえることができる。
- (2) 展開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○作品を見つめ直し、自分の作品の工夫や特徴を振り返らせる。	作家から学んだことを基に、自他の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、その意図や特徴をとらえている。 【鑑賞の能力】	観察 対話 発言 発表
2 作品を学級全体で交流し、感じたことを伝え合う。	○友達の作品の自分とは違う点や、工夫している点を見付けられるよう、視点を伝える。		
3 作家から自分たちの取組への意見や話を聞く。	○作家と自分たちの思いの共通点等を考えさせる。		
4 本時の活動を振り返る。	○自他の作品の意図を感じられたことを賞賛する。		

題材名「海からのおくり物をもとに」〈A 表現(1)造形遊び・B 鑑賞〉

1 題材設定の理由

本題材は、海岸で拾ってきた貝殻や石・漂着物などを用いて身近な場所に働きかける活動である。材料や場所の感じからイメージをふくらませ、形や色などの組合せを生かした楽しい空間へと変化させる。材料や場所と向き合いながら、自分の感覚を通して、形や色・場所の特徴をとらえ、自分のイメージをもって表現を追求していく楽しさを味わうことができると考える。

本学級の児童は、明るく素直で、楽しく物事に取り組むことができる。少ない人数ながら、それぞれが自分のスタイルをもち個性を発揮しようとしている。先に行った「ペパテブ・パラダイス」「ひらいてみると」では、単純な材料を面白い形に生まれ変わらせることの楽しさや、場所に働きかけることで不思議な空間へと変身させる面白さを味わった。この経験から、身近な材料でも工夫次第で場所の雰囲気を変えることができ、自分の思いを表す一つの手段となることの面白さに目が向き始めている。

指導に当たっては、素材のもつ可能性をどんどん引き出し広げていく面白さや場所に働きかけることで雰囲気を一変させられるという醍醐味を味わうことができるようにしたい。空間を意識させるために、長さや高さ、構造物を活用して、変化や量感のある造形を楽しむようにしたい。また、友達と交流しながら発想を言葉として表現したり、鑑賞して感じたことを基に根拠をもって表現活動を続けたりすることで、自分の表したいものの構想を練り直し、「つくり」「つくりかえ」、思いを広げながら自分らしい表現の工夫へと意識を向けさせたい。そして、友達とつながり合いながら表現し、客観的に活動を評価したり、場所の様子の変化に気付いたりするようにしながら、空間造形の楽しみ方を味わわせたい。

2 題材の目標

- 海岸で拾ったものを使って、場所の雰囲気を変える活動に取り組むことができる。
- 海岸で拾ったものの形・色や特徴を基に発想し、場所の様子を変化させることを考えることができる。
- 海岸で拾ったものの組合せ方や並べ方などを試して、空間の表し方を工夫することができる。
- 海岸で拾ったものを使って場所に働きかける活動の楽しさを感じたり、自分たちがつくり出した空間の美しさに気付いたりすることができる。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
海岸で拾ったものを使って、場所の雰囲気を変える活動に取り組もうとしている。	海岸で拾ったものの形・色や特徴を基に発想し、場所の様子を変化させることを考えている。	海岸で拾ったものの組合せ方や並べ方などを試して、空間の表し方を工夫している。	海岸で拾ったものを使って場所に働きかける活動の楽しさを感じたり、自分たちがつくり出した空間の美しさに気付いたりしている。

4 指導計画（全5時間）

- 第1次 材料を触ったり、並べたりしながら、どのように場所に働きかけるか構想を練り、活動の準備をする。 …1時間
- 第2次 材料を使って場所に働きかけながら、思いに合った活動をする。 …3時間（本時3/3）
- 第3次 お互いの活動や自分たちがつくり出した空間を鑑賞し、交流をする。 …1時間

5 本 時

- (1) 目 標 海岸で拾ったものを使って、校舎内の空間に働きかけ、表し方を工夫することができる。
- (2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の活動への意欲をもち、本時のめあてを確認する。	○表現したいことについての思いを聞いたり、題材の目標を伝えたりするなどして、本時の活動を確認する。	海岸で拾ったものの組合せ方や並べ方などを試して、空間の表し方を工夫している。 【創造的な技能】	対話 観察 表現 発言
2 自分の表したい空間になるように、思いに合った表し方を工夫して場所に働きかける。	○児童一人一人の発想を大切にしながら、思いに合った表現ができるよう助言する。		
3 本時の活動を振り返る。	○自他の活動の面白さやよさ、表現の変化に目を向けることで、肯定的に活動を振り返らせるようにする。		

提案発表主題

「『ひと』『もの』『こと』につなげ、

自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか」

1 提案要旨

本学級の児童は、明るく活動的で、図画工作科の授業を楽しみにし、意欲的に取り組むことができる。しかし、中には材料を手にしながらいメージがもてずに活動が停滞してしまう等、具体的な支援や励ましを必要とする児童もいる。図画工作科の素地を培う本学年において、どの児童にも、伸び伸びと、自分の思いを形づくっていく喜びを味わわせたい。

そのためには、授業の中で児童に、自分の表したいことをしっかりとつかませることが重要となってくる。自分のイメージがはっきりともっている児童は、何で、どうやって表そうかと自らかかわり、つくりだしていくであろう。

そこで、授業の導入部における支援のあり方を工夫する。材料との出会わせ方や前時の振り返りを工夫していくことで、自分のイメージや思いをしっかりともち、表現へと向かわせたい。また、「ひと」とのつながりを意識した場を設ける。表現や鑑賞の場で思いを伝え合うことで、自他の表現のよさや面白さに気付くとともに、表現することの楽しさやすばらしさを実感できる。それは更なる表現する意欲へとつながっていく。このような視点を踏まえ主題に迫る2つの題材を設定した。

2 実践例

(1) 実践1

- ① 題材「おきにいのいし」
- ② 実践内容

生活科で訪れた川原で、拾った石から一つ選び、石の形や色から見立てたものに合わせて模様を塗り、自分のお気に入りの石に仕上げた。そして、最後に友達の作品を楽しく見て「すてきみつけたよカード」(相互評価)で伝え合った。

(2) 実践2

- ① 題材「どんどんならべて」
- ② 実践内容

第1次 ペットボトルのキャップを並べたり、積んだりする。

本時では、白のキャップを並べたり、積んだりしながら大量のキャップでどんな活動ができるのか、イメージをふくらませていった。

第2次 様々な色のペットボトルのキャップを並べたり、積んだりして造形活動を楽しむ。

更に10種類のカラフルなキャップを加えて行った。導入の際には映像を通して前時の活動の様子を振り返った。また、色々なキャップをどう使うか話し合う場をもち、それぞれがイメージを広げ、楽しく活動に向かえるよう配慮した。

第1次から第2次にかけて、色を加えることで、(A) 並べる・(B) 積む・(C) 組み合わせる・(D) イメージを表すといった活動に深まりが見られた。一人一人が最後まで体全体を使って活動に没頭する姿が見られた。

3 まとめと今後の課題

授業の導入部において、[実践1]では、小石を自らの目や手で感じ取って選ばせたことで、与えられたものではない、自らが選んだ小石と最後まで向き合って表現する姿が見られた。[実践2]では、前時での活動の過程を映像によって振り返ることで、イメージをしっかりと持って、活動へと入ることができたようであった。このような支援を試みたことで、児童が主体的に材料にかかわり、最後まで活動に没頭する姿を見取ることができた。また、[実践1]では、「すてきみつけたよカード」を用いたことで、1年生の児童も自信をもって思いを相手に伝えることができた。[実践2]では、友達同士のつながりが生まれるような環境を意図して設定した。声を掛け合いながら、互いの思いを伝え合い、自分の表現に自信をもって活動に向かうことができていた。

本実践において、材料体験を広げ、体全体の感覚を働かせて活動に没頭する児童の姿があった。今後、作品や活動の様子を参観日に保護者に伝え、感想をいただく等のつながりをもって、児童の造形活動への意欲がさらに高まるようにしたい。児童の発想や想像力、美的な感覚は、自然、人工の材料とのかかわりほもとより、そこにいる人、空間、言葉がけなどともつながって養われていく。今後も児童の主体的な造形活動を導き出せるよう、児童の思いに寄り添った研究や実践を進めていきたい。

提案発表主題

『ひと』『もの』『こと』につなげ、

自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか

1 提案要旨

本学級の子供たちは、明るく元気で、どんな活動にも前向きに取り組むことができる。物づくりや絵をかくことが好きな子供たちも多い。また、想像力豊かで、かいた絵に話をつけて楽しそうに過ごしている場面もある。しかし、自分の作品に自信がもてず教師にアドバイスばかり求める子供や何をつくりたいのか想像がふくらまずに活動が持続できない子供がいて、まだまだ主体的に造形活動を楽しむことには至っていない。

そこで、作品を通して自分の思いをのびのびと表現したり、子供たち同士が互いの作品のよさに気が付いて、交流を図ったりできる場面を設定し、「ひと」「もの」「こと」につなげるにより、主体的な造形活動を進めていくことが大切なのではと考えた。自分の世界のイメージをふくらませやすい題材や導入の工夫、表現と鑑賞を自然に行き来するような授業形態の工夫などを通して、主題に迫っていきたいと考える。

2 実践例

(1) 題材「ふくろちゃん～わたしだけの友だち
○○ちゃんをつくらう～」

(2) 目標

- ① 袋を使って、愛着がもてる「友だち」を立体的につくることを楽しむことができる。
- ② 袋を変形させながら、つくりたいものを思い付くことができる。
- ③ 輪ゴムやモールなどのしぼり方を工夫することができる。
- ④ できた作品について話し合い、よさを感じることができる。

(3) 実践内容

- 第1次 参考作品を見て、「こんな友だちがほしいな」というイメージをふくらませる。…1時間
- 第2次 袋を変形させたり装飾したりイメージを大切にして楽しく「友だち」をつくる。…3時間
- 第3次 「友だち」を紹介しあって遊ぶ。…1時間

3 まとめと今後の課題

(1) 題材との出会わせ方の工夫

導入では、教師が参考作品を用いて「自分だけの友だち」の話を紹介することにより、子供たちは、参考作品や話を基に「ふわふわしてそうかわいから子猫の友達をつくらうかなあ」「宇宙から来た自分だけにしか見えない友だちにしよう」など意欲的に作品のイメージを

ふくらませることができた。

また、「自分だけの友だち」というコンセプトからイメージをふくらませたことにより、普段は、想像がふくらまずに活動が持続できにくい子供も、自分の憧れや得意なことなどを通して考えることができ、どんどんと想像が広がっていく様子が見られた。「ずっと『友だち』をつくってほしい」と訴えてくる子供も出てきた。

(2) 材料から発想をふくらませるための工夫

家庭にある身近な材料から、自分らしい作品が作れるよう考えさせることにより、材料どうしのいろいろな組み合わせ方や加工の仕方など、子供たちは自由に発想をふくらませることができた。また、教師も袋とひもやモールなどを用意した。それぞれ、色や材質、長さや大きさの違うものを揃えることにより、選択肢を増やし、より発想をふくらませられるようにした。

(3) 表現と鑑賞が自然に行き来する授業形態の工夫

授業形態は、机を班にしてお互いの作品が自然に目に入るような形にした。そのことにより、ひもなどのしぼり方のアドバイスをしたり、面白い形を褒め合ったり、友達の作品からヒントをもらったりなどのかかわりが自然に生まれ、自分の作品に自信をもちにくい子供も「この飾り、どこに付けた方がいいかな」「袋の色は、ぼくの好きな緑色にしよう」など、意欲的に活動に取り組むことができていた。

(4) 自分の思いを「ひと」「もの」「こと」へとつなげる

作品が出来上がると、クラスで「友だち」を紹介する発表会を開いた。「名前はリボンちゃんです。結んだりボンが自慢です」「ぼくの友だちはとても優しいです。ぼくを元気にしてくれます」など、どの子供も生き生きと、「友だち」のことを伝えようとする姿があった。本題材の実践を通して、子供たちは表現することの楽しさを実感し、クラスの友達とのつながりをより一層深めることができた。このような経験の積み重ねが、「やればできる」という自己肯定感を高め、自らつくりだす喜びへとつながっていくのではないかと感じた。

今後は、お互いの作品をもっと積極的に鑑賞し合える場を設定することにより、発想をふくらませたり、新たな視点で自分の作品をよくしたりするなどの活動を更に活性化させ、主体的な活動を促したい。

そして、クラスの枠を超えて「ひと」「もの」「こと」へと活動をつなげ、子供たちが、自らつくりだす喜びを味わえるようにしていきたいと考える。

提案発表主題

「進んで『ひと』『もの』『こと』につなげ、 自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか」

1 提案要旨

本学級の児童は、明るく素直で、何事にも興味をもって取り組むことができる。特に、粘土での造形を好み、時間を忘れて集中する姿が見られた。自分で何かつくることや手先の感覚を楽しむことができる児童は多い。しかし、自分や友達作品のよさにまで気付いている児童は少ない。

そこで、本題材「北小ミニミニワールドへようこそ～小さな箱の物語より～」で牛乳パックの中に自分の表したい世界をつくるという造形活動を行った。自分の周りの「ひと」「もの」「こと」につなげていけるような活動の場面を設定し、つくる喜びや達成感を実感させられるような授業づくりを目指す。そのため、児童が自ら考え、造形活動を進められるような指導方法の工夫・改善点として、次の3点を研究の柱とし実践を行った。

2 実践例

(1) 発想の手掛かりとなる魅力的な材料の提供
いろいろな材料との出合わせ方を工夫することで、創作意欲を喚起するような学習環境を整えた。

- ① イメージしやすい材料（貝殻や木切れなど）や可塑性（紙粘土や綿花など）のある身近な素材を提供することによって、その材料を何かに見立てて、思わずつくりたくなるような材料集めを心がけた。
- ② 円滑に製作を進めるための配慮として、道具の準備、材料の使い方や粘土やボンドの適正量の指導も行った。今まで扱ったことのない素材については、適宜使い方の示範をし、試作コーナーを設けた。また、児童への材料の提示のタイミングについても考慮した。

(2) 児童の思考の流れを意識した授業展開の工夫

自らつくりだす造形活動を展開させるには、児童自らが思考・判断し、自己決定をしていくような機会を意図的に設定する必要があると考えた。

- ① 製作の初期段階において、児童一人一人の思いを十分に引きだせるようアイデアカードにじっくりと取り組ませた。まず、一つの部屋を試作させ、その後4部屋分を4コマ漫画のように自分でお話が自由に展開できるように工夫した。
- ② 製作の最終段階においても、自分のつくったお話の箱を台紙に貼り付け組み合わ

せる時点で、初期段階で使ったアイデアカードを用い、配置を確認させた。

(3) 鑑賞活動の場面づくり

新たな発想や創造的スキルが高まる場面（活動の導入・展開・まとめ）で表現に関する鑑賞を取り入れた。互いの見方や感じ方の違いを楽しんだり、表現における表し方の違いやよさを認め合ったりすることで自信をもち、さらなる表現への意欲をもつことができると考えた。

3 まとめと今後の課題

(1) 発想の手掛かりとなる魅力的な材料の提供

- ① 児童は、材料選びの段階から楽しみながら活動ができ、見立てができるようになった。
- ② 途中で材料の使い方についての示範をし、試作コーナーを設けることで、児童の中で驚きや発見が生まれ、使ってみようという意欲につなげることができた。また、自ら材料を集め、世界を広げることができる児童もいた。

(2) 児童の思考の流れを意識した授業展開の工夫

- ① アイデアカードを使うことで、児童自ら構想を練り、計画を立てる楽しさを味わえるような学習過程を授業の中で仕組むことによって、製作の方向性がはっきりして自信をもって活動することができた。
- ② アイデアカードを並び替え、台紙に自由に配置することで作品全体のイメージがつかみやすくなった。児童の思考を整理させ、見通しをもたせることで、アイデアカードは有効であったといえよう。主体的に活動できる手掛かりとなり、集中して取り組めた。

(3) 鑑賞活動の場面づくり

製作途中において、自分の作品を紹介することで、自分の作品を客観的に見たり、友達の作品のいいところを積極的に見つける姿が見られるようになってきた。また「ほめほめカード」で言語化し、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさをわかってくれたことや認められたことで自信をもち、さらなる表現への意欲につながっていったように思う。

活動の終末において、「ミニミニ美術館」を開催し、2年生を案内しながら、作品紹介を行った。2年生が熱心に見てくれる様子や賞賛の言葉に自尊感情が高まったように感じられた。

提案発表主題

「進んで『ひと』『もの』『こと』につなげ、

自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか」

1 提案要旨

本学級の児童は、みんな図工が好きで、図工の時間を心待ちにしている。しかし、課題によっては、どんな形や色にするか迷って何度も消してしまうような自信のなさが見受けられる。また、自分が好きなものをすぐに表現することが多い。自分の好みや興味を第一に表現することは決して悪いことではなく、むしろ個性を出すためには必要なことであろう。しかし、自分の作品のイメージや、製作の意図をしっかりと捉えた上で表現していくことについては十分とは言えない。

表したいことを絵や立体に表す活動では、どのようにその課題に対して、自分の考えをもち、作品ができるまでの製作過程の中で自分と真剣に向き合えるかが重要であると考えられる。

そこで、一貫した流れの造形活動を通して、作品が完成するまでの製作過程にスポットを当てた取り組みをすることにした。造形活動の中で、「自分」と友達とのかかわり、材料とのかかわり、地域とのかかわりなど、「ひと」「もの」「こと」と深くかかわることで、「自分」と自分をとりまく「世界」を図工の視点から捉えることができるだろう。

本学級(3・4年生)において、図画工作科の時間に「桜っ子の神様」という単元を設定し、次のような仮説を立て実践研究を行った。

「自分」との「かかわり」に注目させることで、児童は自分の思いやイメージを明確にもち、主体的に造形活動に取り組むことができるのではないか。

2 実践例

130年以上の歴史ある桜谷小学校に対する自分の思いをもち、桜谷を今まで見守り続けた「神様」(自分にとって大切なものを守ってもらうものとして、ここでは仮に「神様」と呼ぶ)を想像し、自然の材料を使って立体に表す活動を行った。

(1) 自分の「桜谷」への思いに気付く

題材1 桜谷のお気に入りを切り取る

第1次「メチから・スコープで見つけた!!」

第2次「桜谷お気に入りを切り取る」

写真の鑑賞からイメージすることの楽しさを味わわせる。また、桜谷のお気に入りの場所や風景を探し、写真に撮る活動をする。そ

の活動の中で自分自身が桜谷に対してどのような思いや考えをもっているのかを明確にし、次の造形活動につなげていく。

(2) 自分の桜谷への「思い」を形に表す

題材2 桜っ子の神様

第3次「世界の神様」

第4次「自然の中から材料を見つけよう」

第5次「桜っ子の神様を形に表そう」

第6次「桜っ子の神様を紹介しよう」

世界の「神様」の鑑賞をすることで、「神様」に対する固定概念を壊し、「桜谷」への思いを込めた自分だけの「桜っ子の神様」を想像させる。そしてイメージに合った材料を探させ、「ひと」「もの」「こと」とかかわりながらイメージした「桜っ子の神様」を形に表させる。お互いの作品を鑑賞し合うことで、認め合い自己肯定感をもたせる。そして、ふるさとに対する自分の考えを深めさせる。

3 まとめと今後の課題

今回の実践研究は、目の前に山が広がり、川が流れ、自然豊かな桜谷だからこそできた取り組みである。そんな恵まれた環境の中、鑑賞、ワークシート、体験活動、製作など、様々なアプローチをしながら、作品を完成させるまでの製作過程を大切にしたい一貫した流れを組み立ててきた。児童は学習活動の中で製作への意図を理解し、「桜っ子の神様」に向けた構想を練りあげた。自分の思いや願いを明確にもつことで、「つくりたい。」「表現したい。」という造形活動への意欲をもち、全力で材料と向き合い、全身を使って考え抜いた作品をつくることができた。

保護者、地域の人、先生、友達との「ひと」のかかわり。材料、道具との「もの」のかかわり。桜谷、学校、題材との「こと」のかかわり。これらの「自分」と自分をとりまく「世界」とのかかわりについて深く捉えることで、児童の感性を豊かにできると考える。今後も図工によって、感覚全てを使って、自分をとりまく「世界」を捉える力と、「思い」を表現できる力を身に付けていけるようにさせたい。

最後に、これから桜谷小学校が休校になり、他の学校に統合されても子供達が自らの学校や地域に誇りをもち、心の中のよりどころとして「桜谷」があり続けてほしいと強く願っている。

提案発表主題

「主体的に『ひと』『もの』『こと』につなげ、 自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか」

1 提案要旨

高学年になってくると自分なりの表現にこだわる姿が見られる。本学年の児童も、図画工作の学習を楽しみにしている。しかし、思いが表しきれずに葛藤する姿や、出来映えばかりを気にしすぎて、つくりだす喜びを味わうことができていない児童もいる。

そこで、「表現することを楽しむ」(題材1)、「見ることを楽しむ」(題材2)、「発想することを楽しむ」(題材3)ことに重点をおいた3つの題材を通して主題解明に取り組んだ。

題材の実践にあたって、児童は、様々な表現方法に取り組み、そのよさを認められることで、自分の表現に自信をもち、自らつくりだす喜びを味わうことができるのではないかと考えた。また、主体的に級友や下学年の「ひと」とかかわり、様々な材料や用具といった「もの」とかかわり、作品展示や空間を変化させる活動「こと」を通して、更につくりだす喜びをつなげていく楽しさを味わうことができるのではないかと考え実践を進めた。

2 実践例

(1) 題材1「墨から感じる形や色」

本学級の児童にとって、墨で描くという表現方法は初めての経験であり、絵に表すことに苦手意識のあった児童も抵抗なく取り組めるのではないかと考えた。この題材は、まず墨の濃淡や、用具による多様な形や線のおもしろさを十分に試した後、紙面の構成を工夫し、1枚の紙にまとめた。その後、題名をつけ、互いの作品を鑑賞した。

最初は戸惑い気味であった児童も、にじみやぼかしなど墨による表現のおもしろさを感じ、夢中になって活動した。その後の鑑賞では、様々な表現のよさに気付いたり、自分とは違う感じ方を知ること、多様な見方や感じ方を感じ取ったり味わったりすることができた。【うねる竜巻】【夏の夜空に舞い上がる花火】といった題名からも、表現意欲の高まりが感じられた。

(2) 題材2

「光のハーモニー・カラフルボトル」

この題材は、ペットボトルの凹凸を生かしたり、色の組合せを考えたりしながら色を塗

り、そのペットボトルに光をあてて、光の反射や透過光の美しさを感じ取る活動である。児童は、低学年の頃の色水遊びの経験などを想起し活動に取り組んだ。作品は、話し合った結果、教室の窓際に並べたり階段に並べたりした。

また、自他の作品を並べたり集めたりして展示の仕方を工夫することで、場所や空間を変化させる楽しさを味わうことができた。「他の場所も飾ってみたい。」「キラキラしたら、小さい子が喜びそう。」と、級友や下級生など見る人のことを意識して展示する活動へと広がり、その後も休み時間にカラフルボトルを製作する姿が見られるようになった。

(3) 題材3「すてきな場所へ」

活動意欲の高まった児童は、この題材にも意欲的に取り組んだ。まず、「空間(場所)デザイナーになろう」と呼びかけ、実際の場所に行ったり、スズランテープなどで材料体験をしたりして、どのように空間をデザインするかを発想し構想する時間を設定した。「低学年の子が喜びそう。」と見る者を意識した言葉が聞かれたり、使いたい材料を集めたりする姿も見られるようになっていった。

表現の段階では、慣れ親しんだ愛着のある場所を基に発想を広げ、全身を使った活動を楽しむことができた。小山の傾斜や吹き抜ける風を意識して、幅の広い不織布やスズランテープを張り巡らしたり、前の時間につくったカラフルボトルを鉄棒につるしたりして場所を変化させることができた。活動後は、下学年の児童もその場所で遊ぶ姿が見られ、作品を通したつながりが感じられた。

3 まとめと今後の課題

実践を通して、一つ一つの活動や製作は、作品が仕上がるごとに途切れるのではなく、児童の意識の中ではつながりをもって次の活動への意欲や発想の基になったと感じた。題材配列の大切さとともに、系統性を踏まえた各学年での取組の大切さを痛感した。2学期には、全校的な取組に発展させ、なかよしグループ(異学年集団)活動でカラフルボトルをつくり展示する予定である。今後も、児童がつくりだす喜びを味わいながら活動できるようにしていきたい。

提案発表主題

「主体的に『ひと』『もの』『こと』につなげ、

自らつくりだす喜びを味わうようにするには、どうすればよいか」

1 提案要旨

本校は、全児童6名の極めて少人数の学校である。生活面だけでなく、学習面においても学年の枠を越えて共に活動する場面が多くあるが、自分の感じたことや思いをのびのびと表現することが苦手な児童が多い。

図画工作の学習は、題材により上・下学年の2学級に分かれて行ったり全校で実施したりしている。全校での造形活動では、構想や技能面に大きな差が見られるが、下学年の大胆な活動に上学年が刺激されたり、逆に上学年の繊細な表現に下学年が憧れたり互いにより影響を与えている。一方で、少人数のため、児童同士の様々な発想や表現方法は限られてしまうことも少なくない。また、絵の具の混色による色の変化、いろいろな用具を使った塗り方や色の置き方の効果の違いなど、絵の具を使った多様な造形活動の経験が少なく感じた。

また、本校の児童は、自分たちが暮らしている「伊座利」に誇りをもっている。毎年、徳島市内での日曜市販売体験を行う中で伊座利のよさを宣伝したり、西井川小学校との交流学习の中で伊座利についての発表を行ったりしている。

そこで、絵や立体に表す活動の中に、他校の児童や町の人々に「伊座利の“ステキ”を伝えたい」という思いをもって取り組めば、児童が主体的に取り組めるのではないかと考えた。

そして、本題材の活動を行う前に題材に関連する造形遊びを取り入れることにより、「表現内容」「表現材料」「表現方法」について児童自らかかわり、感じたことを表現する楽しさを味わえるのではないかと考え、取り組みを進めた。

2 実践例

(1) 題材

「伊座利の“ステキ”を伝えようパートⅠ」

(2) 目標

- ・自分の色や形を味わいながら、水彩絵の具を使った様々な表現効果の面白さを楽しむ。
- ・様々な表現効果の美しさや面白さを味わい、それを基に発想を広げることができる。
- ・絵の具を混ぜたり重ねたり、筆以外の用具を用いたり、いろいろ試しながら表し方を工夫することができる。
- ・自分たちの活動や作品から、自分や友達の活動のよさや面白さに気付くことができる。

(3) 実践内容

第1次 伊座利の“ステキ”について感じた

ことや考えたことを話し合い、表したいことをイメージしよう。

(関心・意欲・態度/発想・構想)

各自が感じている伊座利の“ステキ”を伝え合い、海、空、山の自然について絵で表すことにした。構図も全体の話し合いで決めた。

第2次 伊座利の“ステキ”が伝わるように表し方を工夫して表現しよう。

(創造的な技能/鑑賞)

6人の共同制作で、壁一面の大きさの用紙に水彩絵の具を用いて描いた。海、空、山の中から自分が表現したいものを選び描いていった。

絵の具の色(白、黄、赤、青、緑の5色)を、混色しながら描いた。

試し塗り用の模造紙に描きながら、塗り方の効果を確かめた。

3 まとめと今後の課題

本題材は、伊座利の風景を絵で表す活動であった。子供たちには、自分たちが地域に誇りに感じていることを相手に伝えたいという思いがあり、造形活動の目的がはっきりしていたため、終始意欲的に取り組む姿が見られた。また、本題材に取り組む前に、模造紙に絵の具を使っただけの色遊びを行った。様々な用具を提示し、色遊びを楽しむ中で色に対する発見や筆以外の様々な用具を使っただけの表現の違いの面白さを味わうことができた。その活動で感じた造形遊びの面白さや得た技法を生かし、それぞれが感じている伊座利の海、空、山の“ステキ”を楽しみながら表現することができた。

児童が感じている伊座利の“ステキ”について、この他に「海の生き物、地域の人々、山の生き物」が挙げられ、それらはパートⅡとして、海の漂着物を用いてこれらのものを立体に表現する活動を行っている。その際、まず対象物を五感で感じられるように対象物を用いての造形遊びを行い、十分に表現活動の面白さを感じた後に立体に表す活動を行った。

それぞれの活動の中で、自分の伝えたい思いを表現するために造形遊びでの活動が生きる場面が見られたり、伝えたいという思いをもって表現の面白さを味わったりすることができた。今後も思いを伝えるために児童が主体的に取り組む表現する楽しさを味わえるような実践を進めていきたい。

中学校部会

テーマ解説・公開授業・提案発表



「犬のモカ」 鳴門市第二中学校 2年 濱中 麻実

生活に息づく美術教育 ～感動 創造 発信～

1 はじめに

大きく変貌を遂げる現代社会の中で、今日の中学生を取り巻く生活環境は、急速に変容している。そのような中で、美しいものに感動したり、素材の特性を生かした表現をしたりするなど生徒たちの体験や経験の不足は否めない。また、素直に感じたことを伝え合うといったコミュニケーション能力の不足も課題である。

美術は、絵を描いたり、ものをつくったりするための知識や技能を身に付けるだけの教科ではない。美術を学ぶことを通して自分自身を知り、他者を理解し、思いを伝え合うといった、生きていく上で欠かせないたくさんの力を引き出すことができる。

また、中学校は、すべての生徒たちが美術を学ぶ、最後の機会である。中学校3年間の学びが、豊かな人生を創造していく上で不可欠なものとなるように、美術を学ぶことの意義を改めて問い直す必要があるのではないだろうか。

2 主題設定にあたって

美術室に飾ってある作品を見て、「先生、いつこの作品つくるん。わたしもつくりたい。」という言葉をよく聞く。生徒たちが興味をもつ題材に共通するのは、自分の思いを自分なりの方法で試行錯誤しながら表現したものであることが多い。その思いは、生徒の生活体験の中から生まれてくる。学校で学んだこと、普段の生活の中で体験し感動したことなどが基になり、作品はつくられる。生徒が充実した作品を制作するためには、主体的に表現活動に取り組み、様々な材料や用具にふれ、試行錯誤しながら制作を行うことが欠かせない。そして、一度や二度の失敗を恐れず根気強く自分の作品に向き合う中で、達成感が生まれ、創造することの喜びを感じ、更なる表現へと結びつくのである。

生徒たちの中には、表現に対する基礎的な能力の未熟さから、美術に対して苦手意識をもっているものも少なくない。このような生徒たちには、美術の授業が、作品の見た目の美しさや

技能の巧みさを身に付けるだけでなく、自分の表現したい主題を形や色彩を通して発信することができるかけがえのない教科だと気付かせることが重要である。

また、中学生は、仲間から認められたいという思いが強いのも特徴である。作品の表現のよさや個性の違いなどを認め合い尊重し合うことはもとより、制作段階においても、自分の気付いたことや考えたことなどを互いに言葉で説明し合うことが大切である。こうした活動を通して、自分にはない新たな見方や感じ方に気付き、他者から認められることにより、自分の表現に自信がもてるようになる。

したがって、美術の授業で学んだことは、美術の時間だけに活用される力ではなく、美術で身に付けた資質や能力が、将来の社会生活の中で生きて働くことこそ重要なのである。形や色彩、材料などからそれらの性質や感情、イメージなどを感じ取り、心豊かに表現したり、日常生活の中にある美的なものとのコミュニケーションしたりして、他者や社会と豊かにかかわる態度を身に付けさせたい。さらに、自然や美術作品や文化遺産などに目を向け、よさや美しさなどを積極的に味わい生活に取り入れていく能力も高めたい。

以上のように、美術教育を生活に息づかせることによって、より豊かな人生を創造していくことができる人を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究内容

次のことについて、これまでの指導内容や方法を検証し、具体的に工夫改善を行う。

- ・発達の段階や系統性を踏まえた指導計画の作成
- ・生徒の発想を促し、構想を深めることができる題材の工夫と指導の手立て
- ・表現と鑑賞を一体化させた題材の工夫
- ・妥当性や信頼性を高める評価方法の工夫改善

題材名「レッツ フレスコ 思いをこめて」

1 題材設定の理由

フレスコは西洋画の古典技法で、石灰と砂と水を練ってつくった漆喰を塗り、それが乾ききらないうちに水だけで溶いた顔料で絵を描く方法である。石灰の結晶が顔料を覆うため、他の絵の具とは全く異なる壁のようなマチエールとなり、耐久性に優れた画面となる魅力がある。

本題材では、フレスコ技法を用いて「わたしの大切なもの」を描いたり、鑑賞したりする。生徒に描きたい対象のイメージの構想を練らせ、色彩やタッチの工夫によって思いを「かたち」にしていく過程を十分味わわせたい。まず、ワークシートを利用し、「わたしの大切なものは何か」を身近なものから発想し、その理由を考えさせる。そして身近な対象や自分自身の内面を見つめ、自分にとって大切なものを探求し、表現意図や主題を明確にして制作させたい。制作後、自他の作品を鑑賞するとともに大塚国際美術館で陶板によるフレスコ画鑑賞を行う。このように表現と鑑賞を一体化させることで、作品内容やフレスコ画特有の色合いを味わったり、作者の意図や心情を感じ取ったりして作品の見方を深めさせたい。

2 題材の目標

- フレスコ画の作品や技法等に興味をもち、自分の思いを大切に主体的に取り組むことができる。
- 身近なものや自分にとって大切なものから主題を生み出し、構想することができる。
- 材料や用具、表現方法の特性を理解し、制作順序を考えながら見通しをもって表現することができる。
- 自他の作品内容やフレスコ画特有の色合いや描き方の工夫を見付けたり、作者の意図や心情を感じ取ったりして、主体的に鑑賞することができる。

3 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
フレスコ画に興味をもち、自分の思いを大切にしてい取り組んでいる。	対象と自己の内面を見つめて、大切なものから主題を生み出し、構想している。	漆喰や顔料などの特性を生かしながら、創意工夫して制作をしている。	自他の作品内容やフレスコ画特有の色合い、作者の意図や心情を感じ取り、見方を深めて主体的に味わっている。

4 指導計画（全11時間）

- 第1次 わたしの大切なものを考えて構想を練り、下絵を制作する。…3時間
- 第2次 フレスコ画を制作する。…5時間（本時4/5）
- 第3次 自分たちの作品を鑑賞する。…1時間
- 第4次 大塚国際美術館で作品を鑑賞する。…2時間

5 本 時

- (1) 目 標 漆喰や顔料、用具などの特性を生かしながら、創意工夫してフレスコ画「わたしの大切なもの」を描くことができる。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の目標と学習内容を確認をする。	○自分の描くもののイメージや主題について確認させる。		
2 漆喰を上塗りして、顔料と水で描く。	○主題に迫るために混色やタッチの工夫をさせる。	漆喰や顔料の特性を生かし、用具を適切に使いながら、工夫して制作が進められている。【創造的な技能】	作品
3 学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	○自他の表現のよさや工夫について話し、次時の意欲付けをする。		

題材名「見つけた！ステキなあなた～切り絵の世界～」

1 題材設定の理由

本校では、ほとんどの1年生が美術の授業に意欲的に取り組むことができているが、その中には、形をとらえて描いたり、水彩絵の具を用いて着色したりすることに苦手意識をもっている生徒もいる。そこで、着色以外の多様な表現方法を学ばせることで、表現の喜びを味わわせたいと考えた。

本題材は、友達顔をモチーフとして、切り絵の手法を用いて表現する題材である。生徒自らが主体的に友達にかかわり、普通のクラスでの様子やインタビューで知ったことなどを基に、友達のよさや特徴をとらえ、材料を組み合わせるなど、表現方法を工夫して制作する。そして、自分の表現意図にあうように試行錯誤しながら、創意工夫して制作する活動を通して、美術を愛好する心情を培い、心豊かに生活を創造していく意欲と態度を育みたいと思い、本題材を設定した。

2 題材の目標

- 切り絵のよさや美しさに関心を持ち、主体的に取り組むことができる。
- 友達を見つめ、クロッキーやインタビューなどを基にして主題を生み出し、友達のイメージや雰囲気、形や色彩の効果を生かして、構想を練ることができる。
- 材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら、自分の表現意図にあった表現方法を創意工夫することができる。
- 友達のイメージや表現の意図や工夫、材料の生かし方などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わうことができる。

3 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
切り絵のよさや美しさに関心を持ち、構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりして主体的に取り組もうとしている。	友達を見つめ感じたことや考えたことなどを基に主題を生み出し、形や色彩の効果を生かして心豊かな表現の構想を練っている。	材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら、自分の表現意図にあった表現方法を創意工夫している。	友達のイメージや表現の意図、工夫、材料の生かし方などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。

4 指導計画（全8時間）

- 第1次 様々な切り絵を鑑賞する。 …1時間
- 第2次 インタビューやクロッキーで友達のイメージをつかむ。 …1時間
- 第3次 制作する。 …5時間（本時4/5）
- 第4次 お互いの作品を鑑賞する。 …1時間

5 本 時

- (1) 目 標 友達のイメージを基に、自分の表現意図にあう表現方法を考え、創意工夫することができる。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の目標と学習内容を確認する。	○作品が自分の表現意図にあっているかを確認させ、課題を明確に伝える。	友達のイメージを基に、自分の表現意図にあう表現方法を考え、創意工夫している。 【創造的な技能】	作品
2 自分の表現意図にあっているかを確認しながら制作する。	○友達のイメージにあっているかを確認させ、紙の色や材質を工夫させる。		
3 本時のまとめをし、次時の活動の確認をする。	○自分の意図した表現に近づくか確認させる。		

提案発表主題「生徒の発想を促し、構想を深めることができる題材の工夫と指導の手立て」

1 提案要旨

私の勤務する北島町には、学校や図書館、公園など多くの公共の場に野外彫刻が置かれている。しかし、本題材「世界に1つのMYモニュメント」の導入で行った鑑賞の授業では、映像を用いて町内の野外彫刻を見せると、身近にある美術作品であったにもかかわらず、新鮮に感じている生徒が多かった。私たちは、美しい草花や夕焼け、ユニークな形をした生き物、多様に表現された芸術作品など、心動かされるものに囲まれて生活しているが、それに気付いたり、感じたり、考えたりする機会が少なくなっている。実社会での経験不足やインターネットへの過度の依存による想像力の低下が作品制作にも響いているように思う。

本題材では、場所の特性を考え、自分の思いや感情を反映させながら、抽象彫刻をつくることを通して、発想力や構想力の育成を図っていききたい。環境と彫刻作品の関係を考えることで、故郷の美しさに気付き、そこに住む人にとって居心地のよい空間にしていくため、美的感覚を生活に生かす力を、生徒自らが主体的に育んでいくことにつながると考えた。

2 実践例

「世界に1つのMYモニュメント」

(1) 鑑賞

環境と彫刻作品がどうかかわっているのか、イサム・ノグチや新宮晋の作品をビデオ鑑賞したり、北島町にある彫刻作品の写真を用いて鑑賞したりするなどして、環境や生活に根付いた美術の働きについて知る機会にした。また、作品を見たイメージを簡単な言葉で表現させることで、造形エクササイズへのつながりを意識した。

(2) 造形エクササイズ

抽象化した表現の発想や構想の力を高めていく重要な練習として、油粘土を用いて造形エクササイズを行った。まず初めに、「言葉から受けるイメージを形であらわそう」というテーマで、「さわやか」や「のびのび」など、言葉から受けるイメージを形で表現した。昨年度はこの段階がなく、思いや感情を形に込めるといった活動が十分にできていなかった。この反省から、本年度は造形エクササイズのスタートとして実施した。自分の思いや感情

によって、表現する形が違ったりや抽象表現の基礎を理解させることに効果的であった。

次に、「大きな塊から」というテーマで、1つの粘土の塊から、ねじったり、つまんだり、穴を開けたりして、形の単純化や省略について意識させながら1つの作品に仕上げた。最後に、「小さな塊から」というテーマで、丸や三角、四角などを基本形として、それらを複数組み合わせ、構成を意識しながら作品をつくった。これら造形エクササイズでつくった作品は、写真に撮り、一人一人が1枚の画用紙にまとめた。最初は自分の作品に自信がなさそうな生徒も、「いろいろなものに見えていいね」などの教師側の声かけによって、友達同士で作品を見ながら話し合うことができていた。生徒の感想文には「自分でも予想外のものがつくれた」との声が多く見られた。

(3) 作品制作

まず、自分の作品の背景にしたい場所を選び、デジカメで撮影し、場所からイメージを膨らませた。その後、自分のねらいや場所にあった形を抽象化してアイデアスケッチにまとめた。さらに粘土で試作し、イメージを固めて石粉粘土を使って仕上げた。

(4) 写真の合成

できあがった作品は、コンピュータ(Wordソフト)画面上で、場所や大きさを試行錯誤して調整しながら、背景の写真と合成した。生徒は実際にこの場所に自分の作品があることを視覚的にも確認し、彫刻のある空間づくりを考えた。そして、美術が自分の生活を豊かにしていることに気付くことができていた。

3 まとめと今後の課題

発想や構想の段階でつまずき、意欲が低下してしまう生徒は多くいる。中学生にとって抽象表現は容易なことではないが、今回の造形エクササイズの実践によって、より多様な視点で考える力が養われたように思う。しかし、まだ生徒たちがもつ豊かな発想や構想する力を最大限に引き出せるまでには至っていない。様々なアプローチや題材を工夫して、創造する喜びを味わう作品づくりができるように、今後も生徒の発想を促し、構想を深める実践を研究していきたいと思う。

提案発表主題「身近なものから生活に息づく美術教育」

1 提案要旨

本校の生徒は、美術の授業が好きで、授業を心待ちにしている生徒が多くいる。その一方で、美術に苦手意識をもち、作品を完成することができず、自分の作品に愛着がもてない生徒も見られる。それは自分の作品に対して、自信や誇りをもてないためであると考えられる。

生徒に自信や誇りをもたせるためには、生徒にとって題材が身近なものに感じられ、また、関心や意欲を高めるものとなる必要があると考えた。そこで、普段から目にしている弁当をモチーフとし、そのデザイン(企画)や宣伝を行う会社としての擬似活動を行うこととした。

本題材は、複合的な題材である。学習内容は、目的やねらいをもって身近な弁当のデザイン(企画)をする学習と、弁当の販売のチラシをつくる伝達のための学習である。できあがった弁当とチラシを使って、プレゼンテーションを行い、自他の弁当やチラシのよさを認め合ったり、表現の工夫を感じ取ったりして、クラスの鳴一弁当を決定する。

この学習を通して、生徒の学習意欲を引き出すとともに、充実感や達成感を味わわせたい。さらに、弁当の商品化やチラシをつくる広報活動から、美術が生活の中に息づいていることに気付かせたい。

2 実践例

「おいしい鳴一弁当いかが？」鳴一弁当屋さん

(1) 「鳴一弁当の制作」

生徒たちには、クラスを鳴一弁当屋として、一人一人がオリジナル弁当の商品開発をし、最後にクラスのメイン弁当を決定するという流れを伝えた。

まず、開発にあたり、身近な弁当を調べ、具材の形や色の工夫に気付かせた。「どんな弁当にするのか」「対象は」「季節は」など具体的な構想を練り、イメージを明確にして、アイデアスケッチにまとめさせた。

また、素材として用いたのは紙粘土である。柔らかく形が自由につくれる上に、絵の具を練り込んだり、乾燥後に着色することができる。その特性を生かして、材料や料理の質感にもこだわりをもたせ、一部にニスを使用したり、つまものを入れたりして、さらに弁当

の本物らしさを追求させた。

(2) 「PR チラシの制作」

鳴一弁当屋として、最終的に代表を決定するために、自分の弁当のよさや売りを発信(PR)するチラシを制作させた。チラシ作成では、そのコンセプトを整理し、価格やキャッチコピーを考えさせた。そして、それを如何に他者に伝えるかを考え、レタリングなどを工夫して、分かりやすく効果的・印象的なチラシに工夫させた。

(3) 「弁当屋のプレゼンテーション」

ここでは、自分の弁当とチラシを使ってプレゼンテーションすることにより、よさを認め合ったり、表現の工夫を感じ取ったりすることをねらいとした。その中で、自分一人では気付かなかった価値などに気付かせようとした。また、相手に作品のよさを伝えることにより、コミュニケーション能力を高めようとした。さらに、弁当屋の擬似体験から、商品開発を学ぶことによって、美術が生活の中で生かされていることを実感させたいと考えた。

3 まとめと今後の課題

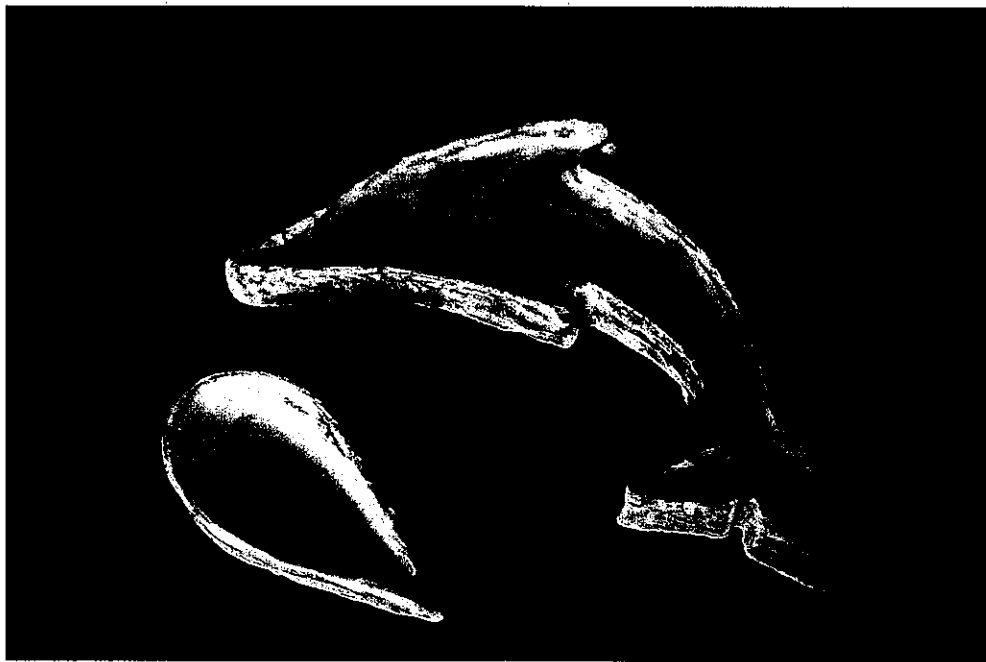
生徒の取り組みは意欲的であり、美術が苦手な生徒も友人と相談しながら毎時間コツコツと取り組んでいた。それは、身近な弁当であったために、色や形がイメージしやすかったからである。また、会社を設定し企画する中で、発想することが明確になったからである。今回は鳴一弁当屋として、オリジナル弁当やチラシを「創造」し、プレゼンテーションを行うことで「発信」することへとつなげた。そして、この活動を通して、認められたり、賞賛されたりすることで、達成感や成就感を実感し、つくる喜び「感動」を感じることができた。

課題としては、小学校の造形遊びや材料体験などの基礎的な学びと関連を図るとともに、表現活動の中で様々な材料や用具を選択したり、表現方法を工夫したりするなど、多様性をもたせることが必要だと考える。

今後、授業づくりを工夫し、生活の中で美術に気付かせ、造形や美術の働きを実感させる授業を展開し、生活や社会と豊かに関わる生徒を育てていきたい。

高等学校部会

テーマ解説・公開授業



「小物入れ」 鳴門高等学校 3年 井村 圭穂

生涯を彩る美術教育 ～つなげていく力～

1 はじめに

四国造形教育研究大会は、本県においては、高等学校、特別支援学校の美術担当教師が他校種の学習活動や生徒作品を観ることができる貴重な機会である。大会主題に掲げたことが、児童や生徒の作品に表現されているのを目にすると、子供の発達段階に応じた専門的な造形教育の必要性を感じずにはいられない。ここに進めてきた我々の研究成果が、明日の授業へと直結し、生徒一人一人にしっかりと根付き、生涯をより豊かに彩ることができるよう取り組んでいきたいと考えている。

2 主題設定にあたって

アインシュタインは、「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。Education is what remains after one has forgotten what everything he learned in school.」と言った。もし、高等学校美術での創造活動が忘れられずに彼らの中に残るならば、それは自らの生涯を彩る重要な役割を担っていたと言えるはずである。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校の図画工作や美術の授業の中で、10年以上にわたって彼らがつくりだしてきたものを集めて見ると、そこに「私らしさ」とも言える彼らの特徴や姿が表れていることに気付かされる。

彼らは年齢に応じたいろいろな感じ方や考え方、表現方法や材料の広がり、過去につくった作品や美術館で見た名画や友達作品、町中にあふれるデザインなど、社会や時代の流行の中で、自分自身の表現を探し続けてきている。し

かし、自分自身の表現と言えるものに出会うのは容易ではない。多数の選択肢や創造的な刺激の中から、自ら選び・決定し、自らの手でつくりだしていても、満足できるものにするのは難しい。彼らは「私らしさ」を求めてもがいている。他者の存在を自分の中に意識しながら、新しい何かを求めているのである。

そこで、この度の研究を深め、美術科の表現や鑑賞の活動を通して、新しい何かを得ることは、自分を見失うことではなく新しい自分を発見することであり、豊かな喜びを得ることができることを伝えたい。

生涯を彩る美術教育とはどのようなものであるか。その答えを、本大会主題「ときめき つくりだし つなげていく、私」に見出し、単に授業の中で完結するのではなく、つくったものが人や生活、社会の中で生かされるものになるよう願っている。そして、自己の生活と社会のつながりに目を向けさせ、生涯をより豊かに彩る美術教育に取り組んでいきたいと考えている。

3 研究内容

次のことについて、これまでの指導内容や指導方法を検証し、具体的に工夫改善を行う。

- ・生徒の主体的な造形活動を促すよう、指導と評価の一体化を図った授業改善を図る。
- ・既習の学習を踏まえた上で、系統性を考慮した指導計画を作成する。
- ・地域の文化や伝統産業などとつながりが深い題材を開発し、指導方法を工夫する。

題材名「お気に入りをつくろう -大谷焼をいかして-」

1 題材設定の理由

本校では、学校設定科目に「ふるさと研究」がある。内容は、郷土文化についての学習を通して、郷土文化に対する理解と愛着を深める。また、郷土文化に関した作品制作実習等を行うことで、創造的な表現力を伸ばし、豊かな感性と文化を愛する心情と実践力を養う。今回、地元の伝統工芸である大谷焼の土を用いた作品制作を行うこととした。履修生徒は、過去に大谷焼の粘土を用いた陶芸の制作経験がある者もいれば、初めての者もいる。陶芸の制作過程において、粘土は様々な表情に変化していく。あらかじめ構想をよく練ることは大切であるが、各自の経験・技量もありイメージ通りにできない場合もある。それでも、それを受け入れつつ、作品を模索していく経験を楽しんで欲しいと思いこの題材を設定した。また、自ら制作することで、身の回りにある陶芸作品の見方に変化が生まれ、その価値に気付くことも期待したい。

2 題材の目標

- 大谷焼に関心を持ち、主体的に発想し制作の構想を練り、材料の特性や用具の使い方などの効果を生かし、熱心に制作に取り組むことができる。
- 材質感などから感じ取ったことや、自己の思いなどから制作の目的や条件を考えて発想し、生活を美しく飾ることや、使いやすさを考えて構想することができる。
- 制作全体を見通し、効率的な制作手順や制作に適した技法などを考え、材料の特性を知り、作品全体(形・色)の仕上がりを意識してつくることができる。
- 大谷焼のよさや美しさを味わい、身近な生活におけるその魅力を感じ取り、友達の商品について意図や表現の工夫を理解することができる。

3 題材の評価規準

A 工芸への関心・意欲・態度	B 発想や構想の能力	C 創造的な技能	D 鑑賞の能力
①大谷焼に関心を持ち、主体的に発想し制作の構想を練っている。 ②材料の特性や用具の使い方など、主体的にそれらの効果を生かし、熱心に制作に取り組んでいる。	①材質感などから感じ取ったことや、自己の思いなどから制作の目的や条件を考えて発想している。 ②生活を美しく飾ることや、使いやすさを考えて構想している。	①制作全体を見通し、効率的な制作手順や制作に適した技法などを考えている。 ②材料の特性を知り、作品全体(形・色)の仕上がりを意識してつくっている。	①大谷焼のよさや美しさを味わい、身近な生活におけるその魅力を感じ取っている。 ②友達の作品の意図や表現の工夫を理解している。

4 指導計画 (全8時間)

- 第1次 大谷焼の鑑賞 …1時間
- 第2次 お気に入りの制作…6時間 (本時3/6)
- 第3次 生活の中の陶芸 …1時間

5 本 時

- (1) 目 標 材料の特性を知り、作品全体(形・色)の仕上がりを意識してつくることができる。
- (2) 展 開

学習活動	指導上の留意事項	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 本時の課題の確認をする。	○制作する過程で構想の変更をしてもよいことを知らせる。	材料の特性を知り、作品全体(形・色)の仕上がりを意識してつくっている。(C-②) 【創造的な技能】	観察 作品
2 構想に応じた技法を用い、成形の仕上げをする。	○技法について、用具の使い方・手順の説明をする。 ○粘土の特性に応じた成形の留意点を知らせる。		
3 本時のまとめ・片付けをする。	○構想に応じた成形ができたか本時の学習を振り返らせる。		

四国造形教育研究大会（徳島大会）運営組織

大会参与 四国造形教育連盟 各県委員長	大会長	石井 一次 (辻小)
	副大会長	大野 淳子 (国府幼) 西條 一之 (鳴門市第二中) 乾 寛 (名西高)

大会実行委員	
幼	大野 淳子 (国府幼) 久次米恵子 (撫養幼)
小	石井 一次 (辻小)
中	西條 一之 (鳴門市第二中) 中南 弘史 (神山中)
高	乾 寛 (名西高)

大会副実行委員長	
幼	笠井佳代子 (精華幼)
小	村井 正志 (里浦小)
中	西條 一之 (鳴門市第二中)
高	丸居 昭彦 (鳴門高)

事務局	
事務局長	森 裕二郎 (川内北小)
幼	泉 早苗 (桑島幼)
小	中野久美子 (加茂名小) 日岡 健二 (林小) 古林 賢一 (里浦小) 杉本 真弓 (新町小) 宮城 佳恵 (沖洲小) 武知 綾子 (鳴門市第一小)
中	宮越 千佳 (藍住中) 三木 健司 (藍住中)
高	志摩 修司 (名西高) 中川 伸一 (名西高) 高丸 公相 (名西高)

大会運営部局				
大会委員	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
研究推進部 ◎宮越 千佳 (藍住中)	◎久米井明美 堀江北幼 東條有希子 精華幼 原 輝子 大松幼	◎若井ゆかり 鳴門西小 日岡 健二 林小 美馬 智子 助任小 加藤 由恵 大松小 古林 賢一 里浦小 佐々木奏美 大松小 武知 綾子 鳴門市第一小	◎三木 健司 藍住中 岩佐 宣之 附属中 坂本 和生 富田中 鈴江 芳美 大麻中 新居 由香 上板中 鳥澤 和佳 日和佐中 小浜かおり 鷲敷中 内藤美也子 勝浦中 天狗石みゆき 石井中	◎林 伸也 川島高 三原 宏和 科学技術高 中田 敏之 みなと高 稲岡 崇代 板野高 清水 愛恵 鳴門高
	◎喜多須 薫 成稔幼	◎下内 新吾 大松小 田村 昌之 高川原小 井上 京子 海南小 島上 二郎 川島小	◎近藤 幸 池田中 早川 香織 加茂谷中 井川 早苗 三加茂中	◎生田 浩二 ひのみね支援 那須 豊之 科学技術高 伊豫 史恵 阿南支援 武田亜希子 徳島市立高
	◎斎藤 和美 明神幼 三島 悦子 黒崎幼	◎林 美穂子 撫養小 中川久美子 土成小 藤川日出夫 東光小	◎反田 卓 鳴門市第一中 中村 誉 小松島中 阿部 哲也 松茂中	◎黒上 周一 阿波高 伊丹 三郎 城東高 三原 宏治 徳島商高 花谷 弘子 徳島北高
	◎美保みどり 第一幼	◎山田 威臣 羽ノ浦小 谷 加奈子 上勝小 真鍋 祥子 喜来小	◎川野 幸代 阿南中 宮成万寿美 貞光中 村上 義昭 山川中	◎神吉 広文 城南高 達見かおる 科学技術高 神戸 妙子 富岡東高 三木 美雪 板野支援
	◎久住 友江 里浦幼	◎杉本 真弓 新町小 古田 有美 千代小	◎中本亜希子 相生中 白井 明美 北島中	◎志摩 修司 名西高 渋谷志津子 城内高 福本 恵 城北高 藤原 満咲 城西高

◎は部長 ○は各校種まとめ役

四国造形教育連盟規約

- 第1条 (名 称) 本連盟は、四国造形教育連盟と称する。
- 第2条 (目 的) 本連盟は、四国各県の造形教育の振興を図り、地域社会の美育文化の形成に資する。
- 第3条 (事 業) 本連盟は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1 四国内外の造形教育関係機関との研究交流及び連携
2 隔年毎、各県輪番の四国造形教育研究大会の開催
3 造形教育に関する教材開発研究
4 その他本連盟の目的達成に必要な事業
- 第4条 (組 織) 本連盟は、四国各県の造形教育団体を以て組織する。
- 第5条 (機 関) 本連盟に次の機関を置く。
1 決議委員会としての代議委員会
2 執行機関としての本部役員会
- 第6条 (代議委員会) 代議委員会は、本部役員並びに代議員を以て構成し、毎年1回、委員会の招集により開催する。代議員は、各県会長、事務局長及び会長の委嘱した役員で構成する。
- 第7条 (本部役員会) 本部役員会は、委員長1名、副委員長3名及び学校種別部長各1名を以て構成し、必要に応じて委員長が招集する。
- 第8条 (役員の仕事) 各役員は、次の仕事を遂行する。
1 委員長は本連盟を代表し、会務を遂行する。
2 副委員長は委員長を補佐する。
3 各部長は各学校種別に必要な事業を推進する。
4 監査委員は2名とし、会計監査にあたる。
- 第9条 (役員を選出) 各役員を選出は次の通りとする。
1 委員長は、大会開催県の会長とする。
2 副委員長は、大会開催県以外の会長とする。
3 学校種別部長並びに監査委員は、代議委員会の互選により選出する。
- 第10条 (役員任期) 各役員任期は、大会開催前年及び当年の2か年とする。
- 第11条 (事務局) 事務局は、委員長のもとにおく。事務局の所在地は、大会開催県とする。
- 第12条 (経 費) 本連盟の経費は、各県団体の負担金及び事業収入を以てあてる。
- (付 則) 本規約は昭和63年4月1日より施行する。

四国造形教育研究大会主題一覧

回	年度	開催県	大会主題
1	昭和39	香川	造形意欲を高める学習活動
2	40	徳島	造形意欲を高め個性豊かな表現力を伸ばす造形活動
3	41	高知	創造力を育てる造形教育のあり方とその実践
4	42	愛媛	たくましい人間を育てるための造形教育
5	43	高知	造形教育の今日的課題を究明し、豊かな感性とたくましい表現力を育てよう (第21回全国造形教育研究大会)
6	45	香川	豊かな人間性をめざして
7	47	愛媛	生きがいの美術教育 (1972・図工・美術教育研究大会)
8	49	徳島	よろこびと美しさを求める造形教育
9	51	高知	生活にねざすよろこびの造形教育
10	53	香川	豊かなイメージとたしかな造形力
11	55	愛媛	目・手・心 ー 一体の美術教育 ー
12	57	徳島	豊かな心と確かな表現を育てる造形教育 (第33回図工・美術教育研究大会)
13	59	高知	創造性を培い豊かな人間性を育てる造形教育
14	61	香川	一人ひとりの個性やひらめきを生かす造形教育
15	63	愛媛	心ときめき、ひびきあう美術教育 (第41回全国造形教育研究大会)
16	平成2	徳島	きらめく感性、豊かな個性 ーみる・しる・つくる造形活動ー
17	4	高知	創造性を培い、豊かな人間性を育てる造形教育
18	6	香川	おどる心、かがやく目 創るよろこび
19	8	愛媛	自己の世界を拓く美術教育 ー思いを力いっぱい表現する子を求めてー
20	10	徳島	生きる喜びを育む造形教育
21	12	高知	一人ひとりの豊かな感性と創造力を育てる造形教育
22	14	香川	見つけて 感じて 表現へ
23	16	愛媛	これが私の表現 (第55回 全国造形表現・図画工作・美術教育全国大会)
24	19	徳島	つながり ひろがり ひびきあう 造形教育
25	20	高知	一人ひとりの豊かな感性と創造力を育てる造形教育
26	22	香川	感じ 想い 学びあう
27	24	愛媛	みつめ つくり つたえあう ー広げよう私の世界ー
28	27	徳島	ときめき つくりだし つなげていく、私

第28回

四国造形教育研究大会

徳島 大会

～ ときめき つくりだし つなげていく、私 ～